女學雜誌

第三百二拾二號

乙の巻

明治二十五年七月九日發兌

注意

社説**卒業後の女學生**は時恰かも業を卒へて青山故郷に歸向せらるゝ人を送り、學問、卒業、事業、など云ふもの、眞の旨義を發揭せり。**史傳**ワシントンの母の傳は人の多く見ざるものならん**花婿と花嫁**の新躰詩は大西祝君が新作にて詩情高逸**悟の歌**は古今に名高き歌を殆んど網羅したり**女學校の學科**に付きて櫻井ちか女史が經驗上發見ありける一意見同意者が討論の種とならん**佛壇前の婚姻**は又**洗濯**の教並に衛生金言等は、さもに一讀を煩はすべき價値ありと信ず。

July 1892
no.322-2
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 322. JULY 2nd. 1892.

EDITORIAL :—Girl-Students after Graduating.

BIOGRAPHY :—The Mother of Washington.

NOREL:—"Aza bannin"(Concluded.) Hisago.

MISCELLANEOUS:—The Bride and the Bride-groom, (By Mr. Onishi). About The Regular Coursein Girls' Schools,(Mrs. Sakurai). "Satori no Uta," (Kotō). The Wedding before the Family Altar.

THE HOUSEHOLD:—What the Washing Teaches. Sanitary Ruds.

CONTRIBUTED ARTICLES :—Life of Gen. Washington.

本號（第三百廿二號）目次

●社說　卒業后の女學生

●史傳　ワシントンの母

●小說　𤢖番人（下）ひさご女史

●雜錄　花婿と花嫁の歌（大西祝君作）○女學校本科の學科につきて（櫻井ちか子）○さとりの歌（湖東生）○佛壇前の婚姻

●家政　洗濯の敎○衞生金言

●寄書　ワシントンの傳

●女報

前週（第三百廿一號）赤表

●社說　立憲帝國政論家

●論說　德川時代の平民的理想（透谷）○郭公嗣（無名氏）

●小說　星夜（脫蟬子）

●批評　奴の小万（天知子）○關原合戰圖志○蕣庵十種

●雜錄　田舍歎（方寸子）○閑文字（若中の樂、等阿法師法語、譯詩）木子○天地管見（其心に恥ぢず、名譽に掛念せず、智及德）六合學人○

●時事　朝鮮問題○新聞紙上外交論○司法大臣○鐵道會議○國民協會○敎育者を敎訓せざる可らず○

●寄書　按摩術を以て盲者特有の業となすの議（中川恭次郎）○當時の文學界を見て（悠々庵主人）○青年の責任（蘇溪生）

●片々

前々週（第三百廿一號）白表

●論說　十九世紀の勳爵士

●批評　「奴の小万」を讀む（是空子）

●兒藍　吾宿の花（若松しづ子）

●小說　𤢖番人（上）ひさご

●史傳　コロムバス夫人○園女

●拔萃　女學生の月經○當世辨士演說遂變概覽○三島通良氏の學校兒童の衞生○敎育時論の女子の風儀

●家政　ホーム建設心得○コロムビヤ家政會の報告

●雜錄　遣ひ物の情○男と女との相違の詩

●文藝　阿佛尼詠詞十八首

●寄書　遣ひ物新發明○取次に主人○改良衣に就ての懸願

●問答　ユーカリ樹○女學生の精神と氣風○迎春行

●女報

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百廿二號 明治二十五年七月九日發兌

社說

卒業後の女學生

第二稲音嘗の作者は曰く、初には苗、次に穗いで、穗の中に熟したる穀を結ぶと、左れど此等のもの同じき穀物にあらずと云ふ可らず。折たく柴の著者又曰く、凡そ人の幼き(十)と云ひ、弱(二十)といひ、壯(三十)と云ひ、强(四十)といひ、艾(五十)と云ひ、耆(六十)といひ、老(七十)と云ひ、耄(八十)と云ふ、其稱同じからねど、只其年を積れるにて、異なる人にはあらずと。學校に於ける書生と、世の中に出でたる働らき手と、其人に變りあるにあらず。行ふべき目的は同じ、學ぶべき主旨は同じ。世の中も亦た學校なり、學校も亦た社會なりとは、數ば此帋上にて論じもし、亦敎え子等に語り聞かせもしたれど、實に今は各女學校に於て卒業式の瀕繁なる時なれば、近頃ろ大坂なる浪華女學校の卒業生に勸告せし大意を左に記さん。

「時を積て日となり、日を積て月となり、月を積て年となる」日月年歲の稱へを別にすと云へど、同じく積く所ろのものは時なり。故に續いて過行き復び還らざる者も亦時也。時や、さま〴〵の名を冠ぶりて現はれ、亦た同じき名を以て廻り返る。人、こゝを以て、一と度び過せし時の亦復び歸り來ると誤まるものあり。左れど、白き駒は或は歸り來らん、流るゝ水は天を廻りて亦又雨ふり落ちん、歲々年々の花必らずしも大ひに違ふと云ふ可らず、但だ彼の「時」なるものに至ては、一と度び去つて復返らず、喩へば楚の懷王秦に入りて還らず、ゆく先はたゞ客土に憂ひ死するが如し。然るを、人、名の同じきによりて「時」は常に來復すと思へり。睦月より師走に至らば、一陽轉じかえりて亦た春にあふとは信ず。如此き人は、舊幕の時世、何々右衞門の稱代々同じきによりて、死せし人轉々相續し相續して永久實に死せずと考ふるの愚にさも似たり。

諸君は、或時は乙女たり、或時は妻たり、或時は母たり、或時は姑たり、其名異なるといへど、諸君の人變れるにあらず、均しく是れ諸君が身、たゞ時を過ごして老ひゆくのみ。左

れど、老ひて死すると云ふは、諸君が身の終にはあらず。老も死も亦た諸君が經過すべき一つの年代のみ。死してのち倘ほ諸君が經過すべき世界あり。

一と度び去つて歸らざる時を、歩々背后にし、年々其齢を送りて、人は永遠長久の旅路を經へて歩む。ゆく先は何處ぞ。其旅の主旨は何事ぞ。

人世の目的は、人品を作るにあり。人品とは、風采の謂ひにあらず、地位名望の謂にあらず、富貴權勢の謂にあらず。もとより此等のもの皆な眞の人品に伴隨して出で來らんは明らかなりと雖ど、此等のものを擧て直ちに是れ人品なりと云ふとを得ず。人品とは、人の品德を云ふ。人の品德とは其の造り主、天地の上帝たる生ける神明々〵に似るの德を云ふ。此の品德の中には、智情意の三を含む。又名けて智仁勇と云ふ。智慧と、仁と、實行の勇也。三つ乍ら其完全なる摸範理想に達するに及びて、人の品德や立つ。人、その品德を立てゝ初めて人世に生存らふるの主旨に適ひ、万物の靈の長たるの職を辱しめずと云ふべし。故に、人もし此品德を立てずば、學ぶと云ふとも、學びざるに同じ。生くると云ふとも實は死せるなり。働らくと云ふとも只だ木の葉の動き犬の吠ゆるに異ならず。

人一生の大主旨すでに如此し。故に、人一生の事業皆な學問にあらざれば不可なり。學問とは人品を立つるの工夫を敎ゆ。その工夫にさま〴〵あり、幼者は遊び、老者は臥す。されど、とは只だ工夫の異なるのみ。詮ずる所ろ、皆な人品脩養の學問にてあらずんばある可らず。

此故に、幼な兒が母の一顰一笑に由りて泣き又喜こぶも學問なり。人形をこぼち又た放り投ぐるも學問なり。ヤヽ長じて幼稚園に入り、所謂る遊戯すと云ふものも亦た其の學問なり、歌をうたい手を拍つて躍るも亦た其學問なり。之より以上、小學校の門を入りて、大學の窓を閉づる迄、學問とは即はち此のみに限ると思ふは悉とく非なり。學問豈に之のみならんや。學校に出でゝのち、諸事業に從ふと云ふ、其事業なるものは亦た學問なり。苟くも此の學問と云へる主旨を外にして事業に從ふものあらば、其人久しからずして器械とあり了はらん。喩へば、水にめぐる車の如く、烟を吐く鑵の如し、何如に吾はよく勞働すと云ふと雖ども、其勞働は器械的の勞

働なり、人の勉勵にはあらず。故に人の事業にあらざる也。人の事業は學問の主旨なかる可らず、人品修養の結果なかる可らず。故に余はつねに言へり、世に出で丶事業を爲せりと言ふ輩、もし其人品にして初より劣りゆかば、これ其事業を毀ちしなり、人の進歩に於て退きしなり、世上多くの事業家は、銀行を建て丶人品を壞はし、庫を立て丶自からを倒はす、これ人の事業と云ふ可らずと。

女學生亦た此理わりを忘るゝもの多し。われ、女學生の他に嫁して家を修むるものに會する毎に、つねに此類の誤まりの甚はだ普ねきに歎ず。女學生出身の細君は大率ね言へり、近頃は、家事にのみ忙わしく、讀書すべき暇まも侍らず、學問と云ふとは頓とまぼろしの如くに覺ゆ、むかし學びの窓に倚りて、ヲルガン奏で、唱歌うたいし人の聲を聞し折こそ一生涯のいとも樂しき時なりけれど。余、か丶る愁歎を聞く毎に、そゞろに、人の覺悟の果敢なきとを悲しむ。

余はか丶る人に會する時、つねに下の如く言ひて慰さめたり。御身何ゆえに去る情けなき歎きをばし玉ふ。御身は一人の下婢を用ひ、一人の僕を使ひ玉ふ、すでに御身は主人なり、此等の人を何如にせば好く使用し、何如にせばよく滿足せしめ、又何如にせば、彼等が人品をよく發達せしむるとを得るかの問題目の前にあり、其の試驗一切のこ丶ろみは悉く御身が心のま丶の處置に任ぜらる、學問の好き方便あるに候はずや、又た、小しとも一家の經濟を料理し、物價の高低を計り、財產の增減を管理せらるゝなど社會、及び經濟の學理を研究するにいとも好き試驗あるに候はずや、子を育て、子を觀識し、子を教育するなど、又は、貧人を助け、親戚と交際するの方など、一々學問にあらぬはなし、何とて目前にかく澤なる學問をば放り、たゞ文字にのみ拘泥し玉ふや、文字を崇拜するは偶像を拜むに均し、人は靈を重んぜざる可らず、書物の尊ときは、之に人の思想あるによる、而して人の思想の重んずべきは、自から養ふの助となるがゆへによる。要めとする所ろは、自ら見、自ら考へ、自ら極め、以て自ら養ふにあり。學問の主旨此の外にある可らず。此の主意を以て御身が今の境界を熟察し玉はゞ、一身をとりまく所ろのもの皆な學問の好き材料には候はずや。物を見るは目による、而して目は開かざれば見ると能はず、御身先づ學問の目を開ひて見玉はゞ、

ムニー」は高く聳へて結搆せまき方にあらざるより、かの河畔木蔭れにこれをのぞむとき酷だゆかしき趣ありしといふ。このたのしき山家のうちに始て設けしは即ち後の大統領となりたるかのジヨーヂ、ワシントンなり。ワシントンの生れしはかれらが伉儷のちぎりを結びし二年の後、その年の二月二十二日なりき。これよりのちマリーは五人の愛兒を設けたりしがワシントン漸く六歳の春を迎へしころマリーの一家族は「ウエストモアランド」の故家をすてゝ「ラパハンノック」の河畔に引移りぬ。

まことに「スパルタ」の昔ならねど、かのマリーが其愛兒を敎ゆるとき一度おもひしかたには必ずこれを貫くといふその氣象ある樣は世の常の母に比ぶべくもあらず。その家族は朝夕かならず相集りて主にいのり、主をしたひ、聖書を讀みてはしたなきものどもに至る迄その祈禱のあつまりにつどひしといふ。マリーはその愛兒を導びくに恒に宗敎上のおもむきを離れず、あるとき其兒を敎えんとて「父親をおろそかにおもひ、母親のいふことをさへ用ひざるその兒の眼の玉は、谷の鳥の來てそれをほりいだし、かのおそろしき鷹の來てこれを食ふべし」といへりとぞ。もとよりマリーは神をしたひ人を愛し、よろづにつけて慈悲ふかき程の女なれば、六人の愛兒は更なり他人といへどもはなはだマリーをうやまひて其おこなひをとうとみしは道理そ。

惜むべしワシントンの父は四十九歳にて物故りけり。六人の愛兒を母マリーの手にのこし、殊に長男あるワシントンすらいまだ年若く其行末のさだまらぬ間に。あゝマリーのかなしみはいかならむ。

これより數十年のあいだマリーは「パルノン」の山頭にありて獨り最愛の長兒ジヨーヂのために祈らざる日とてはあらざりしといふ。かの世に有名なる革命戰爭も終たりしときジヨーヂは母とゝもに「パルノン」の山月を樂まむとせしころはマリーすでに古稀の齡を越えたりけり。マリーは故山のうちに住みなれたればかゝる老年にいたりて身を都塵にけがさんことを好まず、これによりワシントンはしば〳〵「パルノン」におもむきて舊友故老のうちに母のこゝろを慰めしが、ワシントンが大統領となりて「パルノン」の山をいづるときこれ渠が母マリーと永訣の嘆きをとゞめたりしなり。

あゝワシントンが再びその母の顔を見ることとかなふまじとて最後に老母の手を握りしときは如何ばかりその神武なることろも悲哀の涙に暮れしぞや。渠の首は老母の肩に垂れ、マリーの瘦たる腕は渠の肩の上にかゝり、一人は涙を飲みて、一人は男泣きに最後の別離を告げしといふ。これよりいくばくもなく老母マリーは八十三歳を一期として西暦千七百八十九年八月二十五日の夕暮に物故りぬ。

マリーの墓は千八百三十三年のころまで僅なるしるしのみを枕となしてすぎし曩昔のかたみを示すのみなりしが、大統領ジヤクソンにいたりて四十五「ヒート」の巨石に左の墓銘を刻み四民の前にて盛大なる供養をいとなみしといふ。

ワシントン之母

マリー女之墓

誠よ。世の聖人英傑の母のごとくマリーも亦「いのりの女」にして、その一巻の聖書はつねにその身をはなれし例なかりき。そもマリーは如何なる女なりしやと問へば、沈默謹直にして自主自重のこゝろに富みたり、さればその夫に別れて寡婦となりしことと四十六年、そのあいだ他人の輔助を受くることとなくして夫のゝこしをける家産を治め、あへて節をまげず德をけがさず、よくその愛兒を敎育したれば渠等が後日世に立ちしとき常にその母の助言をもとめしといふも亦マリーの品性と風采とを見るに足るべし。しかのみならずマリーは人の前に立ちて名聞がましきゝこへを求むることなく生れ得て謹愼謙遜なればワシントンの母としてマリーを知るものさへ稀なりしなり。ワシントンと母マリーとはその性質のはなはだ相肖たるのみならず、その容貌に於てもそのおこなひに於ても亦はなはだ相似たり。かれらはともに滑稽と想像とに欠けたれど、人にすぐれて良心と決心とを有ち、またはなはだ温厚の德ありしといふ。あゝ八十三年のあいだ神をうやまひ人を愛し終始淑德をまもりたればこそ、その母にしてこの子あるはあやしむべきにあらざりけれ。

○統計

統計雜誌第百三十號（六月廿五日發兌）に露國娼妓統計表あり、其身分別を見るに、日本人は第一等の多數の中にあり。統計學集誌第七十四號（六月廿日發兌）には、外國渡航賤業婦人統計表調査の科目あり。

小說

痣番人（下）

ひさご

こゝに老女入來り、露子みかへりてまことにいひ合へりし如く、かの娘御はその人なりしとかたり聞けし時、茂が目より涙ハラ〳〵と頰につたはりて落ちぬ。

老女は何はともあれその病院の弟の方に樣子たづねみて、とゝの有樣もしらせんとて又た立出ぬ、露子傍の岡持やうの物より氷とり出で氷嚢に入かへて其の余りをよくわらひ口に啣ませんとしづかに立寄、氷嚢を額におきて、頰の色も漸さめてきたりぬ、かひなき歎きに又他の病を起したまはゞ詮すべなし、氷はいかにと匕に入れて口のあたりへ持てくるをみれば、實にうるはしきみめかたち彼露子にも勝れたり、何ほどすぐれたりとも露子死してのぞみもなし同じ名に同じ年頃のこの娘はなぞ世にながらへてあるらん、やさしくみとりくるゝも心ぐるしくにくき迄におぼゆとうれいにひがめる心に其氷も口を欲みてうけず、おしだまりてある茂に、露子はそのあたりにかけたる衣肩のあたり迄かけて少し寐たまへとて室を立出ぬ、あたりに人なくなりしに心ゆるび、思ひの丈涙をしまず泣くづをれし茂、ふと頰のいたみのはげしくなりしに心付て總身の痛みをからく手に支へおき上りて枕上にかけある鏡にみれば、つよくいためるあたりは見る目おそろしう赤くなれるやうに繃帶をかけてありぬ、起しつかれど、おどろきにたよ〳〵となりて床に打臥、げにいともおそろしき疵なりけり、彼火事の我身にとりてなどかく迄とあしき事のみまつわれるぞと思ひ亂るゝに、又身の內熱はげしく成て其まに寢るともなく成ぬ、めざめし時、側にある老女に弟はいかに病院にていかなる有樣なりやととふ、老女否かはれる事あらずといふ、茂おしかへしてわが有樣は告たまひたるかと又とふに老女、いな〳〵何とも使の者いはざりしといひきとこたふ、茂も心安くおぼえしにや、さらばあすにも手紙を持たして又使をやりて玉へ、さま〳〵の御心づかひ萬の御禮は日ならず全快して申べしとてそれより追々に心よく成れるやうなり、露子母子も孤獨といふにいとゞあはれみをそへて快しと見る日は聖書持來て靜かに敎理をとき聞かせなぐさむる

に、はじめのほどこそあれ、茂こばみしこともあれどもつひには熱心なる思志のたゆまぬに、うちまけておもしろからぬながらも、今日迄の忍がへしにとて耳をかすやうに成けり、茂は日に〳〵心よく成るまゝにいとゞ過し露子のことおもひ出らて、夢となく現となくその有様おもひをはあれしことなし、人の足音の聞ゆるにもフト耳たてられて今にも露子かの戸を押開きて愛らしきおもかげ半ばあらはしなんのとおもふ折も有、今しもそれらのおもひに夢ごゝちにありかなしともなく、うれしともなく茫然とみつむる戸しづかに開きておもはぬ露子入來りぬ、けふはいかにやもはや繃帶もとれて見るからに淸々しう成給ひぬ、心だに引立たまはば遠からず全快したまはんといふ、茂うれしげに起上りて膝に手をつき、御蔭にてかく迄に成ぬ、過日よりたのみまゐらせし弟の手紙は屆けたまひつるか、彼の有樣この頃に又聞かせて給はずや、さま〲の手前勝手ある事申さるゝ譯ならねど、おもひの余りとゆるさせ給へといふ、露子うちけして其心づかひありては御躰におしきなり、いで又聖書よみ侍らんとてよみ出づ、あらずもがなと聞ゐる茂が顏のぞき見て、又今日は實に〳〵くるしき役にあたり候ひぬ、父母の姿より申上げよとあるに、御前へはきたりしかど胸も張裂くるやうにくるしうて、御顏見るに聖書もよみ得で涙のみといひてひそかに鼻うちかむ、茂も何となく胸おどりて何事にやと膝をすゝますれば、密に額に手をあてゝ暫時念ずるさまなりしが、心をさだめて聞たまへ、常父母ともに說聞かしまゐらするごとく善能の神の攝理にはおよそ人の計りしられざる惠みの存するなり、牧師の娘めきたる事われと申すにはあらねど、その惠みをうけその愛をしりし者は一ツとして神に謝し奉らではかならぬ事のみ、故に他の宗敎のごとく人を怨み、世をはかなむ事もなき也、常に人にすぐれてかしこしと聞えし人の若くて神の召し給ふ所となるも、みな神の御心にてうれふべき事にはあらず、信仰だにあつからば天國にての再會もかたかるまじ、とはいへどげに御心のおもひ計られてと涙ぐむ、茂何事にやと又とへば、茂か顏をまもりつめて、さらば申上べし、今迄つゝみまゐらせしは御病にさはらんとおもひての故なり御弟保樣は御前樣こゝにきたられしより七日目に死去せられし由病院より申こしぬ、前に使を上げし時はもはや人心地

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なしとの事なりしが遂にかく成玉ひぬ常々由縁ありしと、かたり玉ふを聞まゐらせしかば、我家の青山の墓地に埋めて萬はとり計らひ候ひぬ、けふを過る事およそ十日計に成ぬ、かの日會堂の方さわがしきは何事ぞと妾にのたまはせしが、保様の御とむらひの式ありき、重ね／＼妾の口よりかゝる事のみ聞ゆるは實にせつなき思ひなりと察し玉へとて涙をぬぐひてさしうつむく、茂つら／＼其有樣みて未だまことなりとも信ぜぬやうにて、病院には人多し大木保とたづね玉ひしにや、血氣壯なれば中々に死べき人にはあらず、不日全快せん日僕自ら行てたづね申べしもし、もし、弟も死せりとならば重／＼我にのみ禍のまつわるもいぶかしく世には神も佛ものたまふキリストもなきなりとてひやゝかにいふ、露子もてあぐみて父にかたれば、父牧師代りて入りきたり、またも保にたがひなきよしいひて露子の父より牧師宛て露子につきても盡力ありし事茂がこと、保がこと、しるせし文をも見せぬ、茂今は力なく歎き胸にせまりて堪やらず又食細り日に／＼といきのみつきて、たのみなげなるを牧師親子の切なるなぐさめにいつとなく導びかれて、また／＼全快する頃には二なき信者と成ぬ、床上げの祝と共に洗禮行なひ萬事牧師引受て子の如くいつくしみ、大木が人となりをことの外めでゝ、いひよせし事ありといへど、恩人の露子姉とこそ崇べいかで／＼此不具者にとかたく斷りて白き色に目立頬の痣を月の村雲にて鼻高く眉秀でかたくしまりて赤き唇のげん格にかつ愛らしく氣高き容貌を持ながら病中の恩返しとて布子のつゝ袖に會堂の番人となりてはづる風情なく、これぞ神のわれに與へたる地位なりと自ら甘んじて一生獨身にてそれに終らん覺悟なれば、露子も詮すべなく兩親のゆるしを得て傳道の爲われも身を犧牲とし、獨身にておはらんと決心し、此度手はじめに北海道へと旅立んとす、出立の前夜集りを開きし時かのうるはしき不具者の熱心なる祈禱に袖しぼらぬはなかりしとぞ、この茂が名いつしかひろがりて、これに導かるゝもの多く痣番人と東京の南の方にかしましくいひはやされぬ。

杜若我に發句のおもひあり

あをたふと青葉若葉の日の光

馬糞負ふ人を枝折の夏野かな

雜録

花婿と花嫁

大西祝君作

左の新躰詩一首は、理學士五島清太郎君と明治女學校卒業生千住千代槌子との結婚を祝はんとて文學士大西祝君が式后の席上にて朗唱せられしものなり。

世の中の　色よき花を　數ふれば
牡丹芍藥　かきつばた
育てゝ見たき　撫子や
菊に桔梗や　萩の花
をみなに似たる　女郎花
さくら椿や　海棠と　多き中にも
二本の　いとも妙なる　花ぞさく
　いとも妙なる　花ぞ咲く。
空高く　懸る月にも　咲くといふ
桂の花にも　まさるらん
遠き昔の　しのばるゝ
花橘にも　まさるらん
待人こひしき　夕暮の
うばらの花にも　まさるらん　その二本の
二本の　花のかをりの　ゆかしさよ
　花のかをりの　ゆかしさよ。
世の花の　さきしにほへば
あて人の　玉のうてなも
山賤の　はにふの小屋も
　春風ぞ吹く　春風ぞ吹く
かくばかり　妙なる花の
かくばかり　ゆかしき花の
この花の　咲けるけふこそ
　めでたかりけれ　めでたかりけれ。

女學校本科の學科

櫻井ちか

近來諸女學校は世の流行につれて、其學科追々繁多になり行き之を數ふれば甚たしきは二十幾科なる多數を——其中には特別の望に應じて敎ゆる者もあれど——算し得る也。是れ女學校の進歩するに依ての結果なりといはゞ難有きも余は此

饒多なる諸學科は之を學ばしめて果して其功を擧げ得るや否やに隨分疑あき能はさるなり。

唯余のみの意見にあらず、世の普通の女子――或少數の女子を除く故に普通の女子といふ――は其學ぶべき學科に於ては男子が學ぶを要せざる學科即ち、裁縫家政等の如きものありて而して其學年は男子より短かく而かも其短き學年の内に化粧、洗濯等のために幾分か時間を減削せられ、而して此學年を終らば最早結婚期に近づき母の膝下にて家事見習のため等に急はしくて緩々修學するの暇なく、且結婚したるのちは倘更多用にて修學は愚か、學び得たるものを復することすら難きは世間具眼の人の知る所なるべし。

然るに此學ぶべきこと男子よりも多く學ぶべき時男子よりも少き女子に向て、女子必需の學科と共に普通の諸學科即ち近來の諸女學校の學科制度の如きものを敎へて男子と相駢馳せしめんとすることは出來得べきことなるや、而かも女子の腦力は決して男子の上に立つこと能はざるに於てをや、是れ余の疑なき能はずといふ所以なり。

果然、余は余が有する知己朋友――女學校を卒業し又は相當に修學したる知己に問ひ或は之を試むるに、多くは其已終の學科をも忘るゝ位にて、從て上達するなどは望むべからざる有様に變じ居れり。是或は庖厨、裁縫、育兒等の家政におはるゝが故ならんも余は其修學せし際に學ぶべき科目あまり繁多なりしが故、其學びし事物皆腦に深く印し難く且や夫の暗誦の弊をうけて、一時に覺え一時に忘るゝが如き習慣を得活用の力を失したるがため、此の如き境遇に立到りたることを思はずんばあらず今此の如き人にして新しき英書を得んか活用力少きが故に辭書の助力を仰ぐの煩勞をなさゞるべからず、他の漢書を繙かんか解釋力なきが故に人に敎を請ふの面倒を見ざるべからず此に至ては片手に多用を抱へ居る女子にして此煩勞、此面倒に堪へ得るものあらんや、餘程の閑暇を有する家と卓越なる勉强力を有する性質とを得たる人にあらずんば此煩勞、此面倒に堪へよといふは無理の甚敷事なり見るべし其學力の上達し難きを。已でに上達せざるは退歩の始、知るべし其已終の學力をも失するを。嗟呼二兎を追ふの誡を思はずんばあらず。

然り余は此の如く信ず。故に余は諸女學校に向ひて其流行

を追ふことを止め、――或は流行にあらずして其主義に依る人もあらんが、其人は其主義を變じ、近來の繁多なる學科を注入する制度を、假令學科は少きにもせよ解釋力と活用力一言にいへば實用力を養ひ、他日其已終せしものを只に忘れざるのみならず之を何物にも應用し得る方法に變ぜられんことを願はざるべからず。從來の繁多なる學科制度の可ならざることは事實之を證明す。繁多なる學科制度は實用力養成と相併立し得ざることも又事實之を證明す。記憶せよ、見る數百羽の鳥の群よりも、得たる一羽の鳥の尊きことを。

人或はいはん、普通の諸學科必要なり、故に之を學ばしめざるべからずと。然り、實に然り余も不要とはいはじ否普通諸學科從て學ばしむべからずとはいはじ、只前陳の如く、學ばしむることを得ず、假令之を學ばしむるも只煩雜を來すのみにて、其學ばしむる所以の目的を達するを得じ、已でに目的を達せざるに之を學ばしむる無益といふのみ。若しこれにして其目的を達し得るとせば余は其學科の繁多なるを望む雖にも歩を讓らざるべし故に普通學科の一端は之を高等小學校或は女學校の豫科に讓り又此處にては成べく普通科のみを敎ゆることゝなし、本科に至りては女子必需の學科の外和漢英數及び作文の如き重なる學科の此等重要なる學科を修得する際歷史的地理的其他諸學科に關するものを讀むも可なり、只此等は客にして重要なる學科の解釋力活用力を養ふに供するのみ實用力を養成して已終したることは他日其分量に應じて用に供するを得んことを切望す。

ミロル氏曾て高知に於て女子敎育に付演ぜられしとき女子の學力の男子よりも十分になし置かざるべからざることを説かれたりき、是れ男子は常に修學すべき餘暇あるも、女子は一端結婚すれば最早學業に從事する暇を有せざるによるなり。余と氏とは學科多少の可否の點に於ては其意見異るべきも、余は學科を少くする方よりして氏の語を至言となす、即ち學科を少くせざれば其修學の年限內に於て、後來用に供すべき十分なる力を養ひ得されればなり。

道歌

湖東生

古今集の序に「力をもいれずして天地を動かし目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ男女の中をも和らげ猛き武士の心をも慰むるは歌也」とありて歌の德もいと大なるものなりされど或人の狂歌には「歌よみは下手こそよけれ天地が動き出してたまるものかは」とありて狂歌若くは道歌などの德——諷刺譬喩等に富みて笑の中に人を感ぜしむるの德も亦大なるものなりされば今ふるきものあまたかき連ねて長閑けき日の一粲を博せんとす

米蒔て米がはゆれば善に善惡には惡が報ふとぞしれ
やぶれたる着物をきても足とを知ればつゞれの錦也けり
負てのく人を弱しと思ふなよ智惠の力の强きゆゑ也
我よきに人にわる氣の有ものか他のわる氣は我わる氣也
心とも知らぬ心をいつのまに我心とやおもひ染けん
我宅は靑天井に地のむしろ月日をあかり風の手箒
はる〴〵と安達が原へゆかずとも心の內に鬼こもるなり
酒くんで三昧線引て氣をうばい人を取くふ鬼の多さよ

兄弟が田をわけどりの爭に田わけものとや人のいふらん
後の世ときけば遠きに似たれども知らずや今日も其日成覽
たゞすゝげ心の垢の落ぬ間は法だちのせぬ者にて有ける
きく時はやれ尊やと悅べどまとなければやがて失けり
我にある寶を知らぬ愚さに世界のものをほしがりぞする
明りへは出されぬとをたくみけり唯暗がりに心おくゆへ
世中は四尺五寸になりにけり五尺の躰おきどころなし
ありといふ人に地獄はなかりけりなしと思へる人に社あれ
三寸の舌で五尺のからだをば養ひもする失ひもする
横さまにはふて敎へたかにの子に直にはへとは無理の親哉
よろづ我が本の心に味ひて懺悔よくば人にふるまへ
南無釋迦じや娑婆じや地獄じや苦じや樂じやどうじやかうじやといふは愚じや
皆人の知り顏にして知らぬ哉必ず死る習ありとは
智慧ありと思へる智惠に遮られあはれ誠の道を失ふ
泣はせで泣顏するを泣ながら泣ぬ顏して芝居見る人
木の實をば猿に喰せて猿にまた此身喰せて貰ふ猿引
天地の中にはへたる草も木も神の姿と見つゝ恐れよ

梅干のやふな婆さまも花咲し昔は色も香も有たげな
芋をみよ子に榮よと親痩てゑぐうなつたり甘うなつたり
かばかりの事は浮世の習ぞと心にゆるすはてぞ苦しき
民草の夏のかせぎのほど〳〵に穗に顯て見ゆる秋の田
あい〳〵の返事一でめつちも人も我身に丸う治る
去といふ夫に噂は居ぬといふ犬と猿との喧嘩なりけり
うか〳〵とあだに月日を送る人地獄ならでは行所なし
若盛やよいづ方へ行にけん知らぬ翁に身をばゆづりて
假の世をかりの世じやとて仇にすな假の世計己が世なれば
世中に花も紅葉も金銀も與へてあるぞ精出してとれ
雨あられ雪や氷と隔づれど解れば同じ谷川の水
やみ難きよしあれば社年毎に咲けば必ず匂ふ梅が香
人の子も學べ朝に雀子のちうとゆうべに鼠子のなく
莇草その身のはりを知らずして花と思ひし今日の今まで
我心鏡にうつるものならばさこそ姿のみにくからめや
年を經て浮世の橋をみかへればさても危く渡りつる哉
世の中をめぐり車の我上につみかさねたるはての苦しさ
つく〳〵と思へば悲し何時迄か身につかはるゝ心なるらん

傀儡師胸にかけたる人形箱佛出さふと鬼を出さふと
氣も附かず目にも見ねば何時の間に塵のたまるは袂なり鳧
若い衆よ命おしくば死めされ一度死だら二度は死なぬぞ
明日の事昨日の事に渡らずとたゞ今橋をわたれ世の人
棺桶にたとへ小判を詰たとて黄金佛になりはせまいぞ

佛壇の前の婚姻

數年前佛敎夫婦論を著はし、佛敎を死人のみの宗敎とせず、進んで生靈の宗敎とすべしと論じたる人ありしが、此等の說を用ゆるにや、近頃は、神々しき祠の內、または抹香くさき佛堂にて三々九度の杯を擧るもの漸やく增す。「寶の林」に出でたる尤とも新らしき例は、播州神東郡船津村西勝寺の壇下なる青田節氏が同村の岡田セイ女と結婚したるにて、其時住職後藤祐溥氏が朗讀せし表白文左の如かりしとぞ、

皇明治廿有五年一月十五日を以て、恭しく禮拜稽首して事を佛祖の尊前に表白す、竊かに惟るに心靈あり、而して後身躰あり、身躰ありて而して後ち夫婦あることを

得る、かるがゆへに夫婦の始まる所は、心靈を以て源とす、故に今偕老の契りを結び、新婚の禮を成すに際しては、俱に其心を一にし、專ら其心を同うし、仰ひで佛願の妙旨に乘じ、伏して師主の指教に順ひ、此心靈を大悲弘誓の佛地に植へ、情を深妙難思の法海に洗し、愈よ佛恩の宏遠を知り、ます〳〵憶念稱名を勵み、行住座臥も茲に於てし、造次顛沛も之を忘れず、篤く師主の鴻澤を思ひ、深く智識の幽德を味ひ、千辛以て之に供し、萬苦以て之に當らんとす、良に惟れば受け難きの人身は、父母よく之を與へ、治し難きの社會は君よく之を治む、身壽あらんかぎり、自策以て其父母に孝養し、生命持たんかぎり、自厲以て聖政を確守し、內家室の富榮を起し、外社會の鴻益を立て、現當の妙益兩ながら其れ全からん事を、誓ふて以て佛祖の玉前に表白すと云爾

先生問て曰く、今日は存在し廿年前は存在せぬもので、世の中に尤も大切なるものは何でありませう。
生徒答へて曰く、それは、先生と私でせう。

家政

洗濯の教　□□

家政のうちにてゆるがせにすべからざるものを洗濯とす。洗濯をなさんとするものゝ心すべきは先づフランネルの下着を着用するにあり。如何なる炎天といへども木綿の類に比べてフランネルのかた健康と愉快とを助くることは農夫水夫に至る迄實驗せざるはなし。

よく洗濯せんと思はゞよく其便利を得るにあり。第一には温水なり。水もしあまり冷たしと思はゞ灰汁又は曹達を入れてこれをやはらげよ。硼砂は曹達より更にやはらかなれど白きものを黃色になせば織物の爲によろしからず。次には硼砂石鹼なり。この石鹼を製するには並の石鹼目方百匁程をこな〳〵に切り之に硼砂八匁と湯少量とを混じ火にかけてこれをよく混合せしめ沸騰せざるうちに下して其の固まるを待ちこれを切りて洗濯に用ゆるなり。この石鹼を溶したる水に白きものを漬け置きて明る朝洗濯すれば白くなることと容易

なり。其他桶盥の類は記すに及ばずと雖も殊に盥のごときは其數の多きほど便利にて時を省くものなればよく日あたりのよき處に乾かして後乾きたる物置などに藏め置くべし。

通常の洗濯法

洗濯には衣服の類を別つをよしとす。餘りよごれたるは夜前より盥に漬けて置くべし。決して熱湯を注ぐことなかれ。衣服はフランネルのものと染物の類と白き布木綿の類と絹のものとを相分つべし。絹のものは石鹸水にて洗ふをよしとす。もし餘りよごれたるは石鹸水を取替へて用ゆべし、これにても利かざれば袋の中に入れて强き石鹸水のうちに之を三十分間煮よ、三十分を過ぎては宜しからず。これを煮る間は布の包める棒にてよく動かすべし。かくて袋より取出し再び水中に入れてよごれたる處を洗ひ落し、すゝぎ水にてすゝぎたる後干物の竿に掛けんとするとき糊をふきかけて丁寧に之をたゝき、白きものは日なたに色物は日蔭にて乾かすべし。白き布木綿の類も右の如くして洗濯すべし。染色の類を洗ふには決して盥に漬け置くべからず、灰汁曹達を水に混ずべからず、また干物竿に掛くる前水を絞らずしてながく置くべからず。

フランネルの洗濯には成るべく熱き石鹸水を用ゆをよしとす直に石鹸を用ゐてフランネルを摩擦する時は處々に縮みを生すべし。始めの熱き石鹸水にて振洗ひたるときは更に他の盥に熱き石鹸水を入て、こゝに又振洗ひ、後之を熱湯のうちに投じ湯の冷むる迄置くべからず。れを干物竿に掛けんとする前にはよく之を振はらひ、遇々迄ものばして後に乾かすべし。「キヤラコ」を洗ふには熱湯を用ゆべからず。濁れりと見たる水は之を取更へ、直に石鹸をもて摩擦せず、糊または「マグヂシア」の類にてよごれを去るべし。黑のキヤラコには糊に珈琲を混じて用ゆべく、硬きキヤラコには膠を用ゆべし。或人はキヤラコを洗ふに糠水を用ゆといへり。キヤラコは決してから〳〵となる迄乾かすべからず。キヤラコには又馬鈴薯のすりつぶしたる液を用ゆるもよしといふ、これは水一「ガロン」に薯八個の割合にてよろし。

ものを白くし、しみを取る法

白ふせんと思ふものを石鹸水にて浸し、日あたりのよき草の上に之を置くべし。燒煮しものも多く石鹸水にて濕し日に乾せば再び白くなるものなり。もしこれにて利かされば、牛の

乳二升五合に白石鹼百匁を混じその中にて白ふせんと思へるものを煮よ、其色必ず白ふなるべし。

もの丶黴たるを落すには「バタミルク」にて濕したる後これを日に乾し、白くなりて後水にて洗ふべし。石鹼白堊ともに黴に宜しく、糊と石鹼とレモン少量と鹽（糊の半分丈）との合せたるも宜し。「リネン」の汚點はやはらかき石鹼を摩擦したるのち、糊をつけて日に乾かすべし、もし一度にて汚點の去り難きときは二度ならず三度位まで試むべし。然る後石鹼と糊とを清水にて洗ひ落すをよしとす。

松脂、瀝青の汚點を落すにはその處に香油または獸脂を塗りて二十四時間程置き、もしリネンまたは木綿類ならば之を洗ひ、絹物ならば酒精にて摩擦すべし。

インキの卓布などにこぼれたるを落すには、酢一匕を温湯一杯のうちに混じ、のちこれを清水にて洗ふべし。インキの布のうへにこぼれたるとき直に水を注ぎてぬぐひとれば、痕とはならぬものなり。

光澤あるもの丶熱湯などにて其色を失ひたるは、石油にて之を摩擦するをよしとす、石油を用ゐたる後アルコールを用ゆれば更によし。

絹の手巾またハリボンの汚點を落すには「フレンチ、チヨーク」を用ゐて摩擦したる後、清水にて洗ふべし。この洗ひたるにアラビヤ、ゴムを塗りて紙の間に入れ、あまり熱からぬ小手にて壓するときは、もとのまゝなる色を見るべし。また絹の手袋を洗ふには白石鹼を溶したる温湯にて洗ひ、清水にそゝぎ、フラネルにて拭ふべしといふ。

衛生金玉（上）

a.　z.

骨格

人の骨格の衛生と健全とは清き空氣を吸ひ入るゝにあれば、日々心してその新鮮なるを選まざるべからず。また坐臥寢食の間に於て決して脊骨を曲ぐるの習慣を成すことなく、もしこれを怠る時は身躰の不調和と諸病の基と成るべし、衣服の挾くとて胸部の骨を壓するは殊に愼むべきの至りにて、これが爲に肺部を縮め散素の吸入に恐るべきの害を及ぼすものなり。凡て衣服を肩にて支ゆるをよしとすれば、かの下腹の押縮むるは成るべく之を避くべし。また高き踵の沓を用るが爲

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に肺內の變化を生ずるは明かなる事實にて足病の基を來さゞるはなし。

筋　肉

筋肉をやしなふところの血は肺より來る淸き空氣と胃より來る滋養との兒なり。されば隨分筋肉の爲に意して其發達と强壯との爲に運動をなすことは頗る必要のことならずや。然れども運動に過ぎて反て筋肉を弱むるがごときことあればよく心を用ゆべきものとす。もし運動の不足なる人ありて一旦身體を動かすの位置に變ぜば、よろしく漸々にこれを爲すべし、決して急躁に筋肉を勞するなかれ。また日光は健全と衞生との親なれば、日光のあるところに筋肉を運動せしめ夜間になすは好ましからず。また筋肉を壓することを酷しくして、これにより血液滋養の道を止むる勿れ。もし運動するの力なき程柔弱なるものは、まづ新しき空氣を吸ひ淸水にて身體を拭ふべし。

肺　部

長生の人は肺の大なるが故なり。肺の大なるは日々之を養ふによればなり。この故に室內にありと雖も常に淸氣を吸ふの餘地あるべく、夜間門戸を開すの時には殊に空氣の窒息に注意すべし。衣服を着するにも決して肺を忘るゝなく坐臥住往おのれの身體をおろそかにすることなければ、不老長生の藥を仙境に求むるの要あるまじきなり。病を得て苦き藥を扁鵲の門にもとむるは、そも〳〵末なり。最も天命をおそるゝの人は最もおのれの身を愛すべきにこそといふ。

問　答

(一)問　女兒の爲め日曜學校に用ゆるには如何なるものを選びてよろしかるべきや。

答　多く日曜學校にては「喜の音」を用ゐ申し候。「喜の音」は東京日本橋區蠣殼町一丁目四番地三浦方より發行、一部金二錢、毎月一日出版いたしそろ。

(二)問　西京同志社女學校の町名番地並に看護婦學校の模樣を委細承りたくそろ。

答　同志社女學は京都市上京區常盤井殿町一番戸に候。また看病婦學校は同市同區烏丸通龍前町六百二番戸にして、入學者の年齡は三十年乃至四十年を最好とし、殊に身體健全の必要あれば醫師の保證書を要するよし。入學試驗の科目は聖書の文義を解し得べきこと、事物觀察に敏捷なること、通用するだけに文字を書き得べきことの三にて、修學の期限は一ヶ年六ヶ月、束脩并に月謝は要せざるおもむき、食料は毎月凡そ二圓五十錢、特別貧困のものは敎會の保證により費用を扶助することあるよし。修學科目は看病術、解剖術、生理學、衞生學、及び聖書にて實施修練の科目はこゝに書き申し候。

寄書

○女生の夏休

一人の母

女學生の方々は夏休の間だ必らず歸省せらるゝやう致し度存侍る、いとせめて此間だ丈けなりとも家事を實地に學ばせたく候、いつも〳〵書生風ばかりにては末が案じられ候、外々の親御方の御事を推察し、自分娘の事に經驗して右一文をつゝり差出候

○養雛とクリスト

在故山　カ寸子

小さき弟、此頃ろ雛四十羽程モヤシ、非常に可愛がりて保護致し候爲め、一羽も損はず皆な元氣よく日に増し生長致居候。さて母鷄の其の雛に於ける愛は驚くべきものにて、猫にもあれ、犬にもあれ、鷹にもあれ、惡戲な兒童にあれ、若し雛を害しに來るものあれば、母鷄は羽を擴げ、聲を張り上げ、恐ろしき樣にて防戰可仕候。われは田舍の兒童が雛育つる無邪純樂の美事に感ずると同に、主クリストがエルサレムに對せし感慨の心奥を憶めぐらし候。

○華盛頓の品性

菅紬子

方今英雄の傳記の多きと書林の店頭に堆積せり、喜ぶべきの豪傑論今や聞くに耳五月蠅し、反て其の求むる所の者なきなり、吾人に若し强て傑物を求めしめば、華盛頓なり、余の平素華盛頓を敬慕する所以のもの必ずしも、彼が仁德義勇、單に君子たるを以てにあらず、實に彼は溫厚なる宗教家とし、慈愛なる教育家とし、質朴なる農夫として、彼は古今の巨人なり。由て求むるに彼の全貌を畫くの難き、眞に彼が傳記の少き故なきに非ず。余は大膽にも散見を集め、僅に華盛頓の品性の一端を捕へ、聊し以て大方の高笑を招がむとす。

吾人華盛頓の爲人を考ふると同時に、先づ彼が母たる者の性情を知らざるべからず、華盛頓十一才の時に父は歿し彼に五人の弟あり、然るに彼が母は稀なる賢婦人にして、事務に長じ、其の品行を確立し、井然として紊れず、凜然として犯すべからず、誠に彼華盛頓が母たるの見識ありて、謹愼にして慈愛深く、實に彼の如き英物を出せし道理の、何ぞ彼の母に存せざらむや。

青年の華盛頓

華盛頓は幼時より事務に倦怠せず、學習を勵め、其の工夫を用ひて定規を立て、善く之れを遵奉せり、彼が十三才の時に書したる、稽古本、證書、手形、受取等の雛形今に猶存せりと。此幼年に得たる慣習は、實に彼が生涯の基本なりき、然ども彼が英國より出し頃おひは、身貌少しく硬勁なり、其の態度に禮法ありて、未だ面識せざる人の前に在りては、安舒ならず、田舍の紳董の如き氣風あり、充分に禮貌ありしも、談話の間安閒舒暢ならず、動作の間從容儒雅ならざりしと云ふ。又華盛頓の天性は、靜寧にして忍容なるが如くして、其の實は然らず、艱難危急の際に在て、其の性情を克治し、血氣を降伏せしめ以て能く靜和ならしめ、能く忍容して天性の如くならしめたり。其の本來の性は、憤烈猛悍にして怒り易し、その嚴和溫厚にして、且つ禮讓ありて、他人を思量恕察するは、彼が幼年より自から治め、自から規法を守るとを勉め習ひたる結果効驗なり、華盛頓が傳記者、曰。彼れ其の性氣を務めて矯めたり、故に許多の誘惑に遇ひ、倉卒激發の際に臨むと雖ども、決して其が爲に奪ひ去れず、必ず之を降伏せしめ、或は一時そ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の火性に激動せられ、外面に破裂せむとす、然ども直に是を禁抑するの勢力を有せり、此に由て觀るときは、自から得るとの一事は彼が平常に徹し、自國に忠愛なると、剛勇なると、虔潔なると、自から治むるの至善なるを、卓然として一國の代表となりたり。

壯年の華盛頓

華盛頓の其の大なる所以は、他の英雄の如く其才智技巧に出るに非らず、唯其の職分を盡さむと欲する、正經、老實、高尙、勇邁なる意思あるに由れり。彼が一生の精は全く職分の二字に在り、而して其動力の根原は、首として職分の意思よりして來る、是の故に彼れ尙も此一事は、己が職分なりと確信するに於ては、專心勉力して之を爲せり、假令千難萬阻は前に橫たはると雖ども、義勇の氣象はたゞ屈撓せざるのみならず、益々奮發して已ざりき。華盛頓の品性を察するに、常度ありて、終始一の如きと、及び堅固緻密なると、勤勉にして力量あると、これ等の由て生ずる原素を推せば、皆今日を盡すの精神に歸せざるを得ず、蓋し其の爲す所、固より成功を期せざるに非ざれども、畢竟職分を盡すの念重く、成敗を慮るの念輕し、其の望む所は素より尊榮、名譽報賞にあらず、當に爲すべき本分の事を爲し、之を爲すに極善の方法を求むるに過ざる耳。俗子、曰。善を爲すは易し、善を行ひ其の名を求めざるは難しと。華盛頓は一生の間誠實忠厚にして。職分の道路を行き、決して躊躇退歩することなし、始めは大元帥となり終に大統領に選ばれ、彼れ毫も此間に人望を得むと欲するに念慮なく、特に其の主意の定まれる者を操持する耳、他人の毀譽を顧みず、寧ろ地位權勢を失ふも、敢てその良心の是とするものを失はず、是故に彼は英の使臣と和議を締へむとするに及びて、其議に反對する者華盛頓に强請し、之を廢止せられむとを望めり、然れども彼は遂に和議を結ぶとに決せり、此時民衆騷然として起り、華盛頓に石を擲ち、之を殺さむとするに至る、然し彼は毫も屈する色なく、遂に和約を結べり、華盛頓、曰。我敢て衆民の諫言を心に感謝せざるにあらず、顧みて獨り吾良心の、我に命ずるものに從はざるを得ざる耳と言へり。

晩年の華盛頓

嗚呼華盛頓は、祝福と、感謝の中に最とも榮譽なる職を辭して、其の地位を後進者に讓り、一千七百九十八年、ヴエルノン山に隱退せり。或時法國より米を攻むるの巷說ありしかば、時の大統領亞當士(アダムス)書を華盛頓に寄て、曰。願ば閣下の名を用ゆるを許し玉へ、閣下の名は千軍万馬の勢より大なりと言へり、彼が其國民に尊信敬服せらると、此一事を以ても亦知らるべきなりと。

女報

可愛子編

●澳國公使の御暇乞　豫て賜暇を以て歸國となるべき澳地利洪牙利國特命全權公使ル、パロント、ビーゲレーペン氏は、愈々不日出發に付右御暇乞として六月三十日午前十時參內天皇、皇后兩陛下に謁見仰付らる。

●小松依仁親王殿下　は今般侯爵山內豊景氏の叔母八重子と結婚の儀を願ひ出られたる處、去月二十八日勅許相成り、去る六日永田町の邸に於て結婚式を擧げさせられ、終りて同殿下には御禮の爲め右妃殿下同伴にて宮城に參內し、退朝の後駿河臺の本邸へ皇族及び妃殿下宮內省勅任官の諸氏を招待して賀宴を開かれたり。

●榎本子爵令夫人の危篤　十餘日前より腸窒扶斯に罹かり發熱甚だしく、昨今餘程危篤なるより、主治醫は始終附切にて治療を加へ居る由。

●楠本正隆氏の母堂　楠本氏の母堂今年齡七十二氣宇快濶志操金鐵の如し、楠氏近年民間に下り燕趙悲歌の士と相交る、飛語頻々新聞紙上に出づ、曰く天誅を加へん、曰く汝頭顱の掛代を用意せよと、旨一一新聞紙上に出づ、吏黨の卑術に出でしを知るべし、楠氏事の母に知られんとを恐れ、此種の新聞紙は母前に出すを禁ず、楠氏の友人之を知らず、網大新聞紙上の論事を母堂に告ぐ、一日母堂楠氏に告げて曰く、某々の新聞紙上不穩の事あり、見知るや否や、楠氏聞て驚き曰く母堂何の所より之を知り玉ふか、(母)世間を知る獨り新聞紙のみにあらず、兒宜しく注意せよ、(楠)云ふ所を知らず頓首欽默之や久し(母)兒患ふる勿れ、汝、母あるを知る勿れ、國家帝室あるを知れ、一身あるを知る勿れ、國家帝室あるを知れ、顧れば今を去ると二十年前、汝が勤王の說を唱へ螂臂を振ふて龍車に當らんとせし時、我の寢食を安せざると幾週なるを知らず、我、汝が刺客手中の鬼とならざりしを怪む程なり、今暴人都下に橫行し、名士兇人の毒手に罹る者ありと聞く、然れども之を二十四五年前の日本に比すれば五畿八道點塵なし汝努力せよ、母の爲め一身の爲め、國家の大事を忘るゝ勿れ、我や餘命なし、願ふ所は兒が勤王報國の志を達し我をして地下不瞑の鬼とならしめざるにありと、意氣嚴霜烈日の如し、流石の楠氏母前に伏し、感涙滂沱云ふ所を知らず、適々友人某來り、告ぐるに事情を以てし相共に母堂の恩を謝したりと此母にして此の子あり聞く者誰れか感憤興起せざらん記して世間阿蒙の人に告ぐ。(每日新聞)。

●福島少佐の夫人　騎馬旅行を思立て、先頃伯林を出發し、今は西比利亞平原の瘴煙に身を沒して馬を朔北の風に嘶かせ、來る一月頃ならでは歸朝せられまじきと噂ある歩兵少佐福島安正氏の夫人は、舊田安家の臣高野貞潔氏の長女にて、名を貞子と呼ばる、落合直文氏が、日本新聞に記する所を見るに「人となり溫良貞淑、少佐のまつかりし當時は、みづから薪水の勞をとり、つとめて節儉を行ひ、よく家事を整理し常に少佐をして內顧の憂なく、專ら力を勉學に盡さしめられたりとか、少佐の今日あるは、蓋し夫人の力おほきに居るならむ。ある人夫人に向ひ、こたび少佐の御旅行のことにつきては、さだめて、かなしうおほさるゝならむといひしに、夫人かたちをあらため、妾、不肖なれど武官の妻なり。國のため夫の騎馬旅行、うれしうこそあれ、なにかなしからむといはれたりとか。夫人子をあぐること四人、少佐常に海外にあるを以てその教育のごときは全く夫人に一任せらるといふ。夫人もまたいみじき人なるかな」。

●島田新夫人信子　月下氷翁の約淺からずして島田三郎氏と結婚せられたる西村信子の人となりを聞くに同子はいと溫順の生れにして淑德堅固七歲にして跡見女學校に入りて和漢の學を修むること九年、その最も得意とするところは蓋し漢學なりと云ふ、曾て支那公使何如璋氏、一日學校を參觀して衆生の技能を熟覽したりしが、やがて花蹊女史は信子をして漢書を講ぜしめたり、信子時に年十三滔々として言辭淀まず、一瀉千里の風を以て講義を爲したりしかば、公使はその妙齡にして然かも才學の秀逸なるを稱賛したりと云ふ、後橫濱に歸り山手女學校に入りて英語を修め、幾年ならずして業大に進む、信子また和歌を好み嘗て跡見女學校にありけるとき宮內省御歌會兼題を奏詠したりしにその才藻富贍なりとて畏こき邊よりも賞せられしとぞ、信子また揮毫に巧みにしてその筆勢は師花蹊女史を學びて殆んど見擬ふばかりなりと云ふ、今茲芳紀二十。（讀賣新聞）。

●日本婦人委員會　米國の女王と稱せらるゝパーマー夫人主となり婦人委員會を組織し、万國の婦人よりの出品を世界博覽會に陳列する爲め、會場內に一大陳列館を設置するにつき我國に於ても貴婦人令孃の之を賛するもの多く、松方伯爵夫人を始め花房、三宮の各夫人發起となり工藝教育に關する物品を製作出陳せんと此程已に婦人委員會を組織したる由。

●小學校準訓導　六月七日東京府高等女學校卒業生九名は、七月四日府廳に於て小學校準訓導を命ぜられたり。

●女醫水沼浪子氏　は當年三月より東京市教育院の特志看護婦の任に應じ。孤兒を撫育看護し、衛生上の注意至らざる所なし、氏は性質溫順にして孤に切愛なり、氏が同院に盡力して以來病者次第に減少せり、見る者聞く者共に感賞せざるはなし、現に五月下旬より院內に痲疹病大に流行し、百名以上の孤兒該病に罹り、其病症盛なるときの狀は實に其慘狀見るにしのびざりき、然るに氏は僅か三四名の老婦と共に、晝夜看病に怠らず、其懇切なる爲め百余名の中死亡せし者僅かに一人ありしのみと、氏は栃木縣の人にして（當年二十二歲）同縣の中學及び師範學校を卒業し、明治二十年上京し醫學に志し、二十四年十月醫術開業試驗に及第せり（投書）

●淑德女學校　淨土宗尼輪島聞聲の發意設立にかゝる該校も殆んど落成したれば、近日の中開校の式を執行するといふ。（佛教）。

●寄附金　日本赤十字社特別社員山上兼吉氏は金百圓を同社病院維持金として、正社員酒井爲太郎氏は金二圓を、同社第六回總會費用として、何れも寄贈されたり。

●帶切の怪物現はる　先頃より麴町神田邊に於て何者とも知れず妙齡なる處女の面部に傷を負せ逃げ去るものありしが、此頃は又た十四五位の處女の帶を結び元よりプッツリと見事切取るもの徘徊する由、尤も今より五十年前此の帶切をなすものありて切りたる品をば袋物屋に賣却し居りたるものありしよし傳へ聞きしが、今ま面の當り此の所行を爲すのありとは何等の曲者ぞ。

●美人競會　吾れ之れを米歐に聞く、凌雲閣の寫眞美人會僅かに雛形而已、聞説近日礫川の某處某々の富豪愛妾を安排して互に紫紅を品評す是れ何等の怪事。（東京日々新聞）。

●袈裟　衣の儘悠然として北廓の某樓に上りたるは福井の僧日進、日進の戒律此の如きか。（東京新報）。

●東京電話交換局に於ける女手　は目下三十三人あり、（男交換手四人は夜間のみを司る）女交換手の年齡は皆十五六より二十一二までの者にして、交換器五百餘箇ある中をば、一女六十乃至七十子受持ち、午前八時より午後二時までと、午後二時より午後八時までとを分ち、午前出の者あり、午後出の者あり、一人にて都合六時間の勞動をなせり。その衛生かく六時間、尤も過用する者は耳なり。故に耳に變狀を來たすは事實にして、始めは非常に敏捷となり、（敏捷は已に一種の病）中ごろに至て耳遠くなり、又敏捷となるが如き變狀を呈するは免れざる所なり、且斯くも精神を疲勞するが故に、始めの一と月は妙齡の婦女達は、皆一度は痩せ、馴るゝに從ひ漸次舊に復すると云ふ。今同局技手に就てこれを聞くに、明治二十三年十一月より以來、女交換手は今に至る迄、身躰に格別の變動なく、僅か四五名の退局するものありたるのみと謂ふ。その賃錢　一日六時間を働きて、多きは五圓、少きも四圓五拾錢の月給をとる由、其高價なることは他の勞働者に比していと多額なりと思はる、是れ業務の繁なるによるならんか而してその風儀の高尙なるは誠に喜ぶべきことなり。

●マッチ製造場　マッチ製造の業務も亦婦女勞働の一とはなれり、府下にては芝區築地本所深川などにマッチ製造場あり芝の取明舍、築地の榮盛會社、本所の精行社、共益工場、下谷の廣業社など二拾餘ヶ所ありて、盛に製造に從事し、貧家の少女爭そふて工場に勉强せるを見るべし集めて數ふれは府下のみにて殆んど二千餘人の女工ありと云ふ。特に大坂の如きはなか〳〵盛大なる會社ありて、多くの少女を使用しをれり。（以上二件東京婦人矯風雜誌）。

●英國女皇陛下の即位日　六月廿八日は英國女皇ヴヰクトリア陛下　即位日に相當せるを以て、橫濱碇泊中の英國軍艦クンペリアス、パラース、アーチヤーの三艦及び佛國軍艦セプルン、アラクリチー、ライチン、トリチン、フアンの四艦は孰れも午前八時より滿艦飾を爲し、正午には二十一發の祝砲を放ちて敬意を表し、午後六時より橫濱在留の同國人中の重なるものは、居留地二十番グランドホテルに於て盛んなる宴會を開き、夫々祝意を表せしと云ふ。

●フエリス女學校　橫濱山手なる同女學校ゟ於ては去月廿四日午後九時より英文學會を催されし由。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

●横濱在留外國貴婦人の慈善會　横濱在留外國貴婦人等の發起にて、六月廿九日同港山手居留地公會堂に於て慈善會を催せり、右は教會堂の費途に充るものなりと云ふ。

●神戸頌榮幼稚園　同園にては今回高等科を設置し、米國人ハウ女史、並に本邦教師數名にて、保育學、應用心理學、應用博物學、作文、聖書等を教授し、新に寄宿舍を建築して入學者の便を計らるゝよし。

●中村女子手藝傳習所の近況　高知中島町中村女子手藝傳習所の近況を聞くに、美術科生徒は追々と上達し、從つて日増に入學申込みあり、目下は教場の都合にて八十五名を限りあるが、尙ほ十五名丈は增員するやも計り難く、目下其邊詮議中なり東西各郡村諸學校女生徒より同手藝傳習所を見分したしと申込む向き多けれども、これは一切謝絕しあり、又同所は六月六日速成科の試驗をなせしと云ふ。

●感ずべき母子　豆州賀茂郡松崎本江奈といへる處の土田雪子(三十五)は、今より數年前きか(十三年)のう(十一年)かく(九年)の三女を遺して所天の死去されたる以來貞操堅固にして永の年月變ることなく、儼然婦德を正ふして只管小供の生長するを樂み、教育の如きも世の親々とは違ひ長次の二女をば現に松崎高等小學に入學せしめて奬勵し、家庭の世話も寬嚴宜しきを得、早く長女が成人して善き婿を取り、亡父の後を恙がなく相續するを見て安心せんものと、所天の多くもあらぬ遺產を失はずして他の救助を受けざらんが爲めには身躰の窶るゝをも忘れ當年の如きは子供を相手として盛大に養蠶を爲したるが、周到綿密なる飼育によりて、其結果の惡しかるべき區内にて一等の成績を得たりとぞ、此の如き親には亦善良なる兒女のあるは當然のことにて、三女互に友愛にして克く孝に、平生母の心を慰めて云へらく、母樣の我等を養育なさる後心配は父上なき爲め一層焦したる事ですが、我等の成人するもモー數年の間です、成人さへすれば如何なる仕事でもして屹と御孝養致し海山の洪恩を報しますから、どうぞ少しの御辛捧を願ひます、と言葉のみならず、そこはかとなく甲斐〳〵しく母上の手傳ひ怠りなきはまだ小供ながらも能く母の心を察しての優しき正意他の小供の及ばざることなりと。（靜岡新報）。

●孝貞の女　孝女に不貞の者なく貞女に不孝者あるべくもあられど、斯の如きは實に世に稀なりと云ふべし、石見國邇摩郡靜間村竹下廣八の妻こみ(五十七年四ヶ月)は性質温良にして平素行狀正しく、幼より父母に事へ、至孝、十一歲の時母を喪ひ、十五歲の時夫を迎へ、二十五歲の時父を喪ひしが、其間父母の事としいへば身に代へて立働らきしかば父母も亦其心立を愛で、こみの事といへば又其身に代へて心付け、近隣の者どもは是れもこみの孝心より斯く靜けく一家おさまると褒めぬ者とてはなかりしとぞ、左れど不幸にもこみは嘉永三年十六歲の時よりして其夫廣八は甚はだしき梅毒症に罹りしより、こみは日夜懇篤に看護し治療に種々と手を盡せども、尙ほ日増に難症に陷り、床に起臥することさへ心のまゝにならず、一家ます〳〵貧困に迫り、其日々々の生計さへ立てかれて日夜こみの辛苦するを、廣八は病床にて目擊し最とも哀れの催ふしければ、夫婦の緣を解かんとてこみに其旨語りしも、こみは貞節堅くして左ることにては心を動かさず、如何なる困難なすとても妻として我夫の艱苦を見捨つるは婦女の道にあらずとて、益々貞節を固く守り、一層治療に意を注ぎ己が衣服や家具什器など賣拂ひ醫藥を需めて夫に勸め、家務は養子に打ち托せ、夫を扶けて四國九州を巡り諸々の神社佛閣に詣で平癒祈念に懇願を込め、辛苦を積むこと十餘年、永の年月一日の如く勵みし効は空しからず、終に文久年度に至り面貌に異狀は止めながらも、其病全く癒えたれば、夫も只管家業を勵み、こみも夫の稼業の扶け、再び倒れし家產を興し、現今地所一町余畝步を有し、一家十人睦まじく和風の中に暮し居るは、實に孝貞併び得たる婦女子の龜鑑と云ふべし、此る同縣知事より木杯一個と賞詞とを賜はりしとぞ。（京都）。

●廢娼運動　巖手縣盛岡市に於ては基督教の靑年熱心に知事を說き市會議員を叩き有志者を訪ひ遊說怠らず、近日廢娼演說會を開くの計畫あり、抑當市は人口三万一千八百八十七人あり、明治十八年始て公娼を置く、當時九人ありし、然るに年々歲々增加して今や遂に八十二人となり、藝妓亦九十三人密賣婦は無慮百餘名以上あらんと云ふ、是れ畢竟鐵道工事のために影響する所にして、志士痛嘆すべきの一大現象なり、今之を人口に比較し、丁壯年の男子に割當つれば、即ち不潔女子一人につき十一人弱の概算を生ず、殊に惡むべく又悲しむべきは官吏の汚行にありとす、高等縣官にして蓄妾するもの七人、加之某の如きは一日辨當を妻妾二家より贈るに會し同僚に誇りしといふ、敗德亦極まれりと云ふべき也。

●福嶋縣下昨二十四年女學の概況　師範學校にては、同年三月男十七人、女十七人に卒證書を授與せり、在學生徒の數は男百二十人、女三十三人なり。

●岡山縣下昨廿四年女學の概況　◎師範學校は九名の卒業生を出し、九名の入學生を入れたり◎各種學校に於ける女教員は十一名、前年より四名を減ぜり◎山陽英和女學校は依然張弛を見ず◎師範學校附屬幼稚科は幼兒男二十五人、女二十四人、又郡市に四園あり、保姆は十三人、幼兒は男二百四十一人、女二百十一人なり。

●蓄妾の風若松に盛なり　と福岡日々新聞は記せり、嗚呼矯風の事亦迫れる哉。

●私窩子撲滅策　上毛新聞の寄書家は私窩子撲滅策を論ぜり、要「彼等最も盛なるの街區に數名の巡査を派出して陽に陰に晝夜怠りなく巡回之を取締り時を期せず屢々怪むべき彼等の家宅に侵入して現行を容赦なく引致するにあり」と斷ぜり。

●全國在監人員　内務省に於て調査せる昨年十二月三十一日現在全國在監人員は、總計男六万八千七百九十九人、女四千七百九十五人なりといふ。

●京都遊廓の運動　鴨河新運河を開鑿する爲め、昨年京都市會は之が費用に充つる爲め、各遊廓の賦金に對し市稅六分の賦課稅を加へたるより、京都祇園新地を始め他の七遊廓連合して非開鑿を主張し、遂に非决の効を奏したるが、今度開鑿說再燃したるより斯くては又々賦課稅を課せらるべく、然るときは營業を廢するより外なきに到るべしとて、各遊廓の者共は大に奔走し、不日各遊廓集會を催ふ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

し、委員を撰んで運動する筈なりと云ふ。

●少女幼女を抱きて刀下を脱る　岡山縣下和氣郡大字都留岐村藤原仙太郎の二女みか(十六年)は、同縣下英田郡河會村の豪農丸山よし方へ子守奉公に住込み、貞實に奉公なし居りしが、丸山家の長男關太郎は豫て發狂の氣味ありしに、五月廿日の夜人の寢靜りたる頃、片手に刀を携へ、片手に手燭を持ち、同家に泊り合せし商人を殺し、次に弟某と母よしを殺害したり、下女みかは此物音に驚き目を覺し、直に關太郎の幼妹(殺されし母よしと同衾の幼女)某を抱き逃げ去らんとせしに、關太郎は之をも殺害せんとするを、みかは關太郎が持てる手燭を叩き落し、漸くにして幼女の一命を全うしたり、丸山家の親戚は、みかの義烈を賞し、米三十俵を與へ、又臨檢の諸氏も金若干をおくりて感賞したりといふ。

●横濱聖經女學校卒業式　は六月十日執行す。

●海岸女學校卒業式　築地十三番の同校にては、六月二十二日午後二時卒業式を行ふ、日英兩學全科卒業生左の六名、

小林はる子　坪田ちゑ子　鈴木ひろ子　藪内ちゑ子　富田こう子　米山はる子

●青山英和女學校　に於ては六月二十四日卒業式を執行せり、卒業生は

(普通本科生)原武千代子　飯田　才子　鈴木　信子　多田　民子
浦野　修子　吉見　常子、
(普通別科生)萩原美彌子　潮田　歌子
(英語專科生)ミスマリアナヘクト。

●大坂浪花女學校卒業式

同校第一回の卒業式は六月二十四日午後二時同校講堂に於て擧行せられたり、主幹坂口菊三郎氏司會者となり聖書羅馬書十二章を朗讀了りて、祈禱大石保氏、英語唱歌卒業生、文章（教育）卒業生吉岡さだ子、英語演說（吾と吾靈魂）同坂本まつ子、文章（婦人の責任）同鈴木はつ子、告別并に邦文同中山ます子、英歌獨吟坂本まつ子、演說東京女學雜誌社長巖本善治氏、訣別の歌（邦文教師中村良鈫氏作）卒業生、卒業證書授與坂口主幹、祝詞來賓諸氏、祝文生徒總代和田ちま子唱歌（東京奥野昌綱氏寄贈）卒業生、祝禱アレキサンデル氏、來賓は同主義の各女學校は勿論近隣の各小學教員生徒、天王寺警察署長、東成郡長代理、村長、內外諸宣教師、新聞記者、生徒の父兄、知己、等にして、祝詞朗讀者は郡長弘道輔氏（代讀米田郡書記）、清堀村長、玉造高等小學校長等なり。（福音新報）。

●大坂梅花女學校　にては六月二十七日午後三時より青年會館に於て第十四回卒業式を執行せられぬ、卒業生人名左の如し、

英語科全科卒業

磯田ゆき子(奈良縣)　兼松こと子(愛知縣)　長島みす子(三重縣)

邦語科全科卒業

黑田えい子(大坂府)　兒島ふみ子(岡山縣)　赤林ふゆ子(大坂府)
今西えん子(大坂府)　奥田とよふ子(京都府)　海野たま子(京都府)
兒島ふみ子(前出)　山田しげ子(岡山縣)　北里かえ子(大坂府)

以上十二名

●共愛女學校卒業式　前橋字岩神村共愛女學校に於ては、六月二十七日午後二時第一回卒業式を執行せり、卒業生は（普通全科卒業）中村まつ子　上原なほ子　松本きん子、（普通撰修科卒業）宮崎きし子　矢野かつ子。

●熊本英學校及女學校　同英學校に於ては六月廿八日午後二時より、第二回卒業式を、同女學校に於ては同廿九日第一回卒業式を擧行せられたる由。

●女子學院卒業式　上二番町の同學院にては、去る一日卒業式を擧行せり、卒業生は左の如し、　瀧田みか子　富海みや子　望月すみ子　坪井すむ子　品川よれ子（以上全科卒業、五名）、　山岸みつ子　岡田みつ子　東條あさ子（三名日本全科卒業）後藤あき子　宮川あや子　大久保たま子（以上本科卒業、六名）、行山すゞの（幼稚園保姆專修科卒業）。

●横濱フエリス和英女學校卒業式　は七月四日午後七時半より同校內に擧行せらる、本科卒業生今井あさ子氏の觀迎の辭、本科卒業生山田もと子、嶋田たか子、小野里つれ子、渡邊こう子、河村せん子、高等科卒業生松田みち子諸氏の文章あり、其他音樂の合奏、獨奏、唱歌、暗誦、謝辭等ありて、盛會なりしといふ。

●名古屋清流女學校　に於ては、七月五日第一回卒業讀書授與式を執行せり、卒業生は見田功子、伊藤良子二氏なり。

●三重縣通信

◎藤堂伯後室の還曆　東京本所横網町なる舊津藩主藤堂伯の本邸におひては、去月十二日後室還曆の祝宴を開き親屬の人々を招きたるが、當日會せる人々は、蜂須賀候をはじめ同夫人黑田侯、中川侯藤堂子等にて、午後三時より次第に參邸ありしにつき、頓て祝宴を開き餘興には手踊等あり、午後十一時何れも感をつくして退散せり。

◎三井よれ子女史　本縣尋常師範學校教員にして、三重女學校の教員を兼ぬる同女史は職を辭して、歸京すべき風說ありしが兎に角その事は一と先づ思ひ止まりて、やはり本縣に留り女學振興に從事せらるゝ由。

◎温故堂產婆會　津市立町温故堂產科學校にては、去月六日新築の講堂にて開業產婆傳習生の研究會をひらきぬ、來會者二十餘名。

◎寄宿舍設置　温故堂產科學校にては是まで寄宿舍なかりしが、此程新設して生徒の入舍を許せり。

◎產婆卒業試驗　去月二十三日温故堂產科私學校に於て卒業試驗を行ふ、受驗者は飯野郡藤本たか子、英虞郡出口小きん、一志先增由みよ子三氏なり。

◎ハンカチフ縫箔所　南勢山田町に於ける「ハンカチフ」製造所は設立以來漸次盛に赴くよしなるが、目下工女百五十餘名にしておひ〳〵增員し五百名に及ぼす目

的なり、又同工場は三ヶ所あり、第一曾根町第二尾上町第三宇治浦田町なりと。

◎三重私立正禮學舍　すぎにし頃女子に女禮及裁縫教授の目的にて、津市東町に起りし同舍は、永續きはせまじと評判ありしが案の如くこの程閉舍せり。

◎三重私立女學校存廢の再報(一報)　津市丸の內なる三重私立女學校はこれまで振起會の盡力にて漸く維持しきたりしが、最早其維持の年限も過ぎ、經濟上困難を生ずるに至りし事は通信者が三百十九號の女學雜誌に報道せしところなるが、其後の模樣をきくに五月十六日同校內に振起會の總會をひらき、同月に限り同校を廢することとなりしにつき、當時成田、島川、柚原、朝川、阿保、山高、鈴木の七氏を財產保管委員に撰擧して財產を保管せしむると同時に維持存續法の調査を依托することとなり、諸氏大に盡力せられ、現在教員諸氏に對しにも、存續の方法確定するまで無報酬にて授業を擔當することを依賴し、漸く今日にいたりぬ、然るに去月十一日右委員諸氏は同校に會していろ〳〵打合をなし、第二の私立女學校を興こし現校のまゝ引繼ぐべき相談をなし、十五日の夜に又協議會をひらきしに、出席者は參事官をはじめ、市長、師範、中學校長、市會議員等にて種々協議するところありしが、結局同校は津市有志の設立に係る養正學舍(女學校)に合併を申込み、承諾を得ば同學舍及三重私立女學校を閉鎖し、相混一して新女學校を起し、授業料をもて經費を支持せば、その存續も敢て困難にあらざるべしとの說多數を占めしにより、保管委員はその手續を運ぶこととなり、午後十時頃散會せり、元來養正學舍は裁縫を主として普通學に重きをなかず、兎角保守的に傾き、三重女學校は改進主義にして、普通學科に重きを置けり、かくの如く主義及學科に於て少からざる相違あるにつき、此兩校の合併は六ヶ敷からんとの說あり。

◎養正學舍三重女學校の申込を拒む(二報)去月廿一日の夜養正學舍設立人諸氏は同舍に相談會を開きて、三重女學校より申込にかゝる合併說につひて相談をなせしが結局その申込を謝絕することに决せり、その理由は到底維持の目的なしとのことなりしとぞ、はじめ女學校繼續委員は津市長長井氏克氏に談合して、津市に引續かしめんとし、ほどその運びにいたりしが、その后繼續委員は條件を附して引き續かしめんことを請ひしかば、遂にその談合も水の泡となりたりけり、養正學舍との合併談の如きも畧ぼ之に似よりしとありしにより、同舍設立人諸氏の感情を害して謝絕せらるゝにいたりしなり、實に折角完備せる三重女學校のため、又縣下女子教育のため惜むべきことにこそ。

●福井通信

◎高等女學校　福井縣立高等女學校は、此迄假校にして、狹隘不便少からざりしが、今度足羽郡役所舊廳舍を移築して、同校舍に充つる事に决したり、同校は普通高等を教授し一家の良母たる婦人と、女教員とを養成するを目的とし、之を二科に分ち、其教員は師範學校と中學校との教員中より兼務せしむる事とす、同校の月謝は一人五十錢宛なりと。

◎羽二重織の工女　福井縣にては、近來羽二重の製造非常の盛大を極め、一ヶ年製造額四百万圓以上に及び、爲めに工女の不足を生じ、熟練なる工女は一ヶ月十圓以上にあらざれば雇聘する能はず、其他十歲以上十五歲以下のものにて大抵圓五圓の月給を得るを以て、近來他府縣より當地方に來り、羽二重織を傳習するもの多き程にて、從て彼の柳陰招人の醜怪は殆ど地を拂ふ有樣なり。

城北居士

●廣島縣通信

◎藝妓之閉居　豫て屢報道せし如く、從來廣島市にては藝妓の跋扈殊に甚しく、大手筋の如き最重要なる位置に住居し、白日靦然として横行せるより、識者は口を極めて放逐論をなし大に輿論を喚起せり、それかあらぬか鍋島本縣知事は去る十六日を以て左の縣令を發したり、

廣島縣令乙第三十號

藝妓營業は明治二十五年十月一日より廣島市貸坐敷免許地若くは西地方町西新町內に住居するものに非れば之をなすことを得ず

藝妓營業者は明治二十五年十月一日以後其住居地外に宿泊せんとする時は管轄警察署又は巡査派出所に屆出づべし（罰律畧す）

明治二十五年六月十八日　廣島縣知事　鍋島幹

吾人は充分の滿足を表する能はずと雖も、かゝる怪物が一小區域內に籠居するに至りたるは、廢藝妓實行の第一着歩として大に祝せずんばあらず、希くは百尺竿頭一歩を進め全廢の氣運に至らんことを。

◎唱歌科の置設と兒守　坊頭の兒守が、鄙猥の俗歌もて、白系的幼童を染殺するは吾人の常に歎ずる所なりしが、山間の小學校にても近來唱歌の一科を加へ生徒に課せし(從來之を欠げり)より、一般の兒守社會に至るまで、彼の兒守歌又は高尙なる種々の唱歌を口唱するに至り、大に實功を現し、矯風某上の切を與んとするの勢あり。

廣島市

●丁抹皇帝御結婚第五十年賀　は五月二十六日執行せられたね、奉祝の爲め諸國より來會せられたる御親族は、露國皇帝、同皇后、希臘皇帝、同皇后、英國皇太子、同妃、同皇女、クムベルラント公、同妃等なり。

●布哇國の皇嗣定まる　布哇國女王リリウオカラニ陛下は、去る五月三十日自ら親臨して國會の開會式を執行し玉ひたる後、カイウラニ内親王を皇嗣に定むる旨の勅語を朗讀し玉ひたりと云ふ。

●孤兒　グラッドストン夫人、ハワーデの家に於て五六歲の孤兒を養ふ常に三四十人、身自ら養育の任に膺り、曾て一日も怠ることなし、孤兒ために其の愛に懷き、田婦亦其美德を稱す、身、廊廟の上に在りて天下生民の艱苦を知らざる者と、其差幾何ぞや、噫。

●黑人會　合衆國シカゴ府にマナッセ會と稱する一の協會あり、會員たらんとするものは白人以外の人種(專ら黑人種)にして白人種の婦人と結婚したるものならざるべからず、會の目的は互ひに相戒めて德義心を厚うするにあり、本年始めて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

設立したるものなれども會員既に百二十名に達せり、近頃の集會に於て會員の一人演說して曰く、黑人種の男子と白人種の婦人と結婚する時は兩人種社會に於て種々の批評を免るゝ能はず、本會の目的は是等の惡感情を掃滌せんとするにあり、抑も結婚のことは互ひに相愛するより起り、婦女子が人に婚するは其人を愛し其人と共に生活せんとするが故に婚するものなれば、他人の批評抔は更に頓着せざる所なれども、左ればとて聊か願る所なかるべからず、黑人と婚する婦人は多くは皆身外無一物のものなれば勤めて德義を養ふの心なかるべからず、大抵の人は批評さるゝが五月蠅き爲め常に寺院に參詣せず、是れ大なる過ちなり、本會の會員たるものは勤めて寺院に參詣し、且小兒をも耶蘇敎に熱心なる樣養育せざるべからずと云々と。

●メソヂスト派婦人の權　過る三月二日ネブラスカ州チハマに開かれたる第二十六回メソヂスト敎監督大回に於ては種々の注意すべきことあり就中大回の席に婦人代表者を許すと云ふの說は尤も著るしきものなりき。今此く成り來りたる初より順序を簡單に擧れば一千八百六十八年に於てヒラデルフヒア洲の神學博士ケーネット氏はメソヂスト敎監督會議の席に代表者たるべき登撰者に男女の區別をなすの理由なしと熱論し此くして同年の同會議の節七十一に對する百四十二票の可決にて同會議報告中男子と云ふの語を全却するに至れり。降て千八百七十二年に至り再び同樣の案起り曰く大會代表者に關する諸般の事務は悉く敎會員たるものは之に與かるべしと而して總會は之を議決したり。一千八百八十年の總會にては敎會の規約中より彼と云へる代名詞を取去ることゝなり而して總會代表者として自由なる撰擧を行はんが爲に其撰擧會なる每四季集會の會員中に女子をも加ふることとなし此くして千八百八十八年の大會には初めて五名の婦人を代表者として同會に出席せしむることをなせり。今其人名を擧んに、ロックリバー部會のミス、フランシス、ウイラード女史カンサスのアマンダ、ジー、リッペー女史ミネソタのメリー、ジー、ニンデ女史ネブラスカのアンギー、エフ、ニユーマン女史幷にピッツベルグのリズー、ヴアン、キルク女史等なり。此くして五名の女史の推薦せられしも未だ大會は全く之を受くるの景色なく年々其方法を廻らし遂に千八百九十二年の大會は全く之が決末を爲したり。今ヴイチンヘラルドが云ふ處によれば此くして敎會は其が會員の代表者として婦人をも均しく受容るゝと云ふ事の適當たるを全世界に證明せり實に此三分の二と云ふの多數は即今此方法に進む事の將來に取り有益たるの證とも云べくして即此規約の變革は現今の必要のものなりと」。神學博士ジー、ダブリユー、ヒユー、ユー氏はセントラル、クリスチアン、アドボケートに此件の必らずしも憲法變革と迄でに及ばざる事を論して曰「婦人が此大會に出席するを容すや否やは此會の撰出を人として一般に爲すと男女を區別して爲すとの如何にして此問題は必らずしも憲法上改革の事にはあらず只年會は其多數に從ひて取行ひ得べき事なり」と。實に是迄此大會に婦人の撰出せらる事なきは蓋し年會は之を爲さざりければなり只コロンビア、リバー部會は此の二名の婦人を撰擧せし事あることは又常置員の如きものにして其主意少しく異なるの點より一定の規約として用られざりき。今後の景勢は愈々世の注意となるべきのことにこそ。

●ミスクロー女史　ヒユー、ブライス、ヒユーエス氏の令妹エリザベス、エス、ヒユーエス孃は過る二月廿七日永眠に就かれたるニユーンハム、カレーヂ最始の總長なるクロー女史の概畧を敎育評論に寄せて傳記せられたり。女史は千八百二十年に誕生し嚴父よりはウエールスの血統を引き慈母の方より云はヾヨークシャイヤーの人なりき。彼の詩人アーサー、ヒユー、クロー氏は即ち女史が令弟なりき。女史二歲にして父母と共に亞米利加に移住し彼處に十四歲の星霜を經後ち廿二歲の妙齡にして一友と供にリバープールの學校に學び其後十年始て一校をアンブルサイドに開かれたり。女史が四十三歲に達せるの日其が同胞の三令弟は逝去せられぬ時恰も女子に高等敎育を與ふると云ふことの運動頻りなるの頃にして女史は令弟の家族內に同居せられありき。此時に際して女史は尤も力を盡したるの一人にして特に地方撰拔並に大學擴張などに就ては女學の爲め非常に盡力せられたり。此くして千八百七十一年女史五十一歲の時女史はケムブリッヂ大學來學の女子監督の務めに當らんことを諾し引續きてニユンハムレーヂの主監となれり。女史は禀性同情の念深く注意愼密にして甚く虛飾を忌らひ特に自制自治の念熾んなるの人なり、而して人間と云ふことによほど重大なる觀念を有し爲に苟も靈魂上並に肉體上の生命と云ふことに關せざる限りは其注意稍や至れる者の如し故にある人は云ふ女史に取りては淸靈なるものにて愈々淸靈なるべしと。女史が同情の念に富みたる事は女史自からは純然たる舊敎信徒なりけれども各々其信ずる所に從ひて尤も多く得る處なるべければとて女史は少しも信仰上の支配を爲さず爲に其が最始の主監なる女史の宗敎にも關らずニユンハム校は特別にカドリック敎との血脈を有せざりきと云ふ。

●ニユーンハムカレーヂ、チールドホールの副主監ジエーン、リー孃はクロー女史の性狀を擇拔せんとて嘗て女史が博士アーノルド氏の令孫に付き心慮せる次弟をアトランタに記載せり曰同令孫は即今のハムフレー、ワード夫人なり少より精神過敏にして實にクロー女史は此未來のロバート、エルスモール、及びデビッド、グ、リーヴの女記者を訓導開發せしむることにつき大に苦慮せられたり。されど女史は之ぞ小娘が後來尤も長所たる處の者なるべしと思ひて常に滿腔の注意を加へて之を監督し女史が天稟の寬恕、英斷深慮並に獻身的の精神は尤も多く之に現はれたり隨て又女史が凡ての事に望を屬するの深きことは皆女史にて愉快の種となること並に誹謗冷淡などの樣少しも見へぬ事は實に驚くべきなり。女史は强き感情の人なりきされど一時の感情に制せらるゝ如きの人にあらず故に其所置明瞭公平にして特に物の澁滯を嫌らひ此かる如きことには何人をも躊躇することなく勸誘せられたり。女史が死の前一週間許は非常に死と云ふことの問題に感じ時に或は覺へず長縮する如き樣を見る時もありかども常に顏光自から微笑を呈し靜かに樂しき談話もて側らに集へる朋友を慰められぬ。女史嘗て記されたる記錄中に死の時の事を記し且つ其一句に葬儀のあまり大ならざる事を望み曰く葬送と云ふことは誰も快よからぬ事なれば人或は之が爲に心情を害するを恐ると云々と記されたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下御覽濟の書

巖本善治妻譯

再版

（リットル。ロード。フォントルロイ）

小公子

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネィ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくぬらせる程、無情なことは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尙一層優待したいと切て願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尙ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて幸苦せられ、紙數二百八十頁密書十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一册正價三十八錢。郵稅八錢也

（批評）

○十一月十五日讀賣新聞○經濟雜誌五百九拾八號○巖谷季雄君○十一月十三日報知新聞○十一月十七日中央新聞○早稻田文學四號○國民の友百卅八號○十一月廿六日國民新聞○十一月十七日中正日報○亞細亞廿二號○護教廿二號○下田歌子君○中島俊子君○石橋忍月君○一月十六日自由新聞

女學雜誌社

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

組糸老舖

日本橋區よし町

佐竹勝兵衞

仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候
右ノ外組糸一切御好ニ應ヲ精製

流行
新形

○メリヤス品々
○時計紐品々
○帶留類品々
○はをり紐品々

正札引なし

子宮神藥

一袋 金拾錢　七袋 金三十錢　[illegible] 金[illegible]錢

子宮病より發する下腹病。胸痛頭痛。眩暈。立くらみ氣鬱。疳氣募り故なく悲しく淚出物事氣にかゝりて眠れず俗に疳と血の道と云ふ病には服藥して必らず治す又白血。長血。月經痛。或は產前產後の病に即効あり小兒欲き人は早く用ゆべし

貴婦水

大壜 十錢　小壜 五錢

色を白くし肌膚を緻密にし顏手足の艶を光澤するの一大特効藥にして貴婦人かたの白粉下に用ゆれば白粉鉛毒を防くの藥力ありされば。ひゞ。あかぎれ。しもやけ。は一夜にて不思議の効を奏す常に用ゆれば汗疹。彩刺そばかす。たゞれ等の患ひなし貴女の水は貴婦人慈善會に於て畏くも　皇后陛下御買上の榮を得たり

東京四谷傳馬町一丁目十七番地

本舖　永田義原

特別賣捌店

東京上槇町 安川榮次郎
同 松村町 岩淵長藏
同 兩國廣小路 大木口哲
同 瀬戸物町 玉置金八
同 本石町四、 森谷萬二郎
同 四谷御門外 大枝灰吹屋
同 麹町十三丁目 中島甚助
同 所 河合治兵衛
同 麹町六丁目 中村又兵衛

神田小川町 伊澤弘芳
坂本町角 德田多助
芝神明前 岩本新兵衛
牛込築土八幡町 尾澤瓦助
牛込宮比町 尾澤豐太郎
本鄉五丁目 高島文藏
淺草菊屋橋 山田清兵衛
本所元町 林忠藏
銀座一丁目 佐々木玄兵衛

大阪四橋南詰 本林丁子屋
同 堂島蜆橋 高橋盛大堂
下谷御徒士町 中島百之助
深川富岡門前 小池佐兵衛
赤坂一ッ木町 伊藤吉兵衛
淺草西鳥越三町 山田鶴吉

巖本善治君編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵稅共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全篇十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何んか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
母妻論……六十四
女學に反對する者の言論……八十四
日本女學讀本の編纂……九十二
女禮と躰操……百
上躰操……百
下女體……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

明治女學校出版

兄姉が高潔淸浄なる生活を取り正當なる業務を營むの一助として各自の便宜を成す一書を編制せんとす、同意の敎會學校敎社及び基督敎主義慈善傳愛の諸結社は其地位名稱主義綱目また個人は住所職業姓名を詳細に記載し來る八月三十一日限り小生迄御通知被下度候也、御通知の節は左の如く願上候

第一號表

府縣市郡區町村番地
宗派別又は附屬宗派
別主義云々
敎會名社名又は校名

第二號表

府縣市郡區町村番地
職業　姓名
（注意官吏教員役員等は職業欄内に其官省學校社名の記入を望む）

日本全國の諸敎會は公會に於て報告通知を望む

横濱市不老町美以美敎會内

天田儀八

女學雜誌社出版書目錄

著者	書名	册數	正價	郵税
鈴木弘恭大人述	文法口授	全	金拾二錢	金二錢
松山高吉君著	邦文學	全	金二拾錢	無郵税
鈴木弘恭大人述	雅俗諸體 作文口授	全	金二拾五錢	金四錢
同 講述	徒然草講義	一	金八錢	金二錢
同 參考 標注 著述	徒然草拔萃	全	金貳十錢	金四錢
同 參考 標注 著述	竹取物語讀本	全	金貳拾錢	金四錢
同 標注 參考 著	土佐日記讀本	全	金二十錢	金四錢
女學校用讀本	國文抄讀	五册	一册 金二拾二錢宛	一册 郵税金四錢宛
池袋清風大人著	淺瀬の波	二册	金三拾錢	金四錢
松田敏足君著述	明治女小學騂草	上下	金四拾錢	金六錢
香月恕經君著	記事祝文 女子文例	全	金二拾二錢	金四錢
本村熊二君著	漢文抄讀	四册	一册 金二拾四錢宛	一册 郵税金四錢宛
横山雅男君著	婚姻論	全	金十六錢	金四錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒 攝生法	全	金十錢	金二錢

著者	書名	册數	正價	郵税
三島通良君著	母のつとめ	母の卷 子の卷	金七十錢	金六十錢
女學雜誌社編輯	兒育草	全	金二拾錢	無郵税
同 編輯	女子生理	全	金二十五錢	無郵税
同 編輯	子供のはなし	全	金五錢	金二錢
村木經策君述	家政要旨	全	金五錢	金二錢
藤尾錄郎君著	家計簿記法	全	金二十錢	金四錢
渡邊鼎君著	束髮案內	全	金五錢	金二錢
巖本善治君著	女學叢書 木村鐙子傳	全	金八錢	金二錢
安東松治郎君著	貧兒の教育	全	金六錢	金二錢
井上藤平君編 訓蒙 繪双紙 久野正香君著	猫と鼠	全	金五錢	金二錢
巖本善治君著	看護婦美談	全	金貳拾五錢	金六錢
坪谷善四郎君著	吾黨の女子教育	全	金拾錢	無郵税
小野鋼之助君編	日本女禮式	全	金五十錢	金十二錢
同 編	かな習字帖	三册	一册 金拾錢宛	一册 郵税金二錢宛
	文かきふり	二册	金三十六錢	金六錢

婦人矯風雜誌

明治廿五年六月三十日發兌

婦人矯風會機關

目次

泰西時報 ○婦人大統領後補者○喫煙童子○婦人の代言○婦人と鐵道○チリ國の婦人○開化國の婦人軍

社説 ○矯風事業の盛衰によりて國運をトすべし

會報 ○ウエスト孃の來遊○委員會○海外醜業者取締の請願書

婦女世界 ○赤子の軍隊○大膽なる婦人○及第は婦人に多く落第は男子に多し○家族は罪人を少なくす○娘子の軍隊

雜錄 ○近日の來客ウエスト孃の傳○貧困にして身を立てしジユーワルの傳(續)○佛國家庭の有樣○たい望○如何にせば美人となり得べきや

小供のため ○小にして大を飲むものはそれ蛇か

家政 ○九種の效用○石鹼と砂糖○夕食の停滯せし時の心得○朝顏を愛する人のため

調理法 ○馬鈴薯の調法

雜報 ○一粒の雜草、天下に蔓る○如何にせば淫賣を撲滅すべきや○寢床にて小兒の窒息○罪人自首○夏期學校○府下の痲疹○煙管にて梵鐘を製せんとす○吃匡正院の設置○婦女勞働の景況○輕卒婦人は模範とすへし

發行所 東京麻布龍土町五十六番地 婦人矯風雜誌編輯所

女鑑

第十八號

一册代金拾錢
六册前金五拾五錢
十二册前金壹圓
全國無遞送料

七月五日發行

女鑑 「我と」云ふ感念は女子にも必要なり

論説 所謂自由結婚の弊(承前)(武谷水城)○女子の至尊とは何ぞ(前川弘一郎)

史談 靜の傳(井口隆太郎)●塚本みさが事(松野操雄)

家政 育兒小言(十七)(武谷水城)●婚禮式(七)(有住齋)●家內衞生(三笠の舍主人)

學園 女子書牘文論(承前)(目黒和三郎)●文學小傳(承前)(難波津淺香)

漫錄 ●樒の歌かたり(承前)(富田馬太)●林述齋女訓(承前)(君山居士)●庭の訓(承前)(菅の舍主人)●京太郎物語(承前)(藤井行麿)●西三條實條公後室の消息(承前)(樒の舍)●月の異名證歌(承前)(遠山操)●小說寒紅梅(承前)(中村花瘦)

文林 歌文數十首

雜報 數件

餘芳 みくろまのあゞ

敎の庭 兼題歌文數十首

●口畫 靜之前(松本楓湖、武內桂舟)
●挿畫小說

東洋の君子國麗秀端正なる女敎自然に存す之を涵養し之を發揮し以て貞淑賢良の婦女を養成し雄大忠誠なる國民の慈母たらしめんこと是れ女鑑の務むる所なり故に女鑑は世好と時流の表に卓立し誠意本旨の貫徹せんことを期す

發行所 東京麴町區平川町五丁目十六番地 國光社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

交詢案內

養兒

身元正しく健康なる三歳の孤兒(男)あり若し實子なきを憂ひ收養を望まるゝ仁あらば御相談可申との事詳細は下名宛御問合せあらば御回答申すべし

東京本鄉帝國大學寄宿舍
高根虎松

第四回夏期學校

開校時日　七月十六日ヨリ十二日間箱根驛ニ於テ
校費　金三拾錢
滯在費　一日　金拾七錢
入校　東京英和學校內
申込　田中儀三郎宛

日本鐵道會社、日本郵船會社、兩毛鐵道會社(照會中)割引切符ヲ要スル諸君ハ學校又ハ教會ノ證明書ニ郵稅二錢ヲ添ヘテ田中儀三郎宛申込アルベシ
委員永野武一郎上領純一の二名箱根驛石內彌平太方へ出張セリ

●オールガン賣物●

右は金卅五圓にて買入僅か五ヶ月程使用物今度金廿二圓に賣拂度御望の方は。京橋區出雲町一番地警醒社へ御申越を乞。

本誌三百廿一號乙の卷に廿五圓にて買入とあるは三十五圓の誤植に付正誤仕候

女學雜誌社廣告掛

林學士　星野愼之輔君著
昆蟲植物金石
採集法

目錄

昆虫分類
昆虫變態
採集地
採集注意
採集器
貯蟲器
刺針法
昆蟲運搬法
幼蟲類飼養法
葉とは何

花とは何
枝とは何
植物
及樹木種名
採集すへき部分
採集氣節
採集器具
乾腊法
標本製法
金石分類名稱

金石の現出
識別鑑定法
岩石分類名稱
土性分析法
採集器具
採集方法
地質觀測法及び器具

小形洋綴美本
正價金八錢
郵稅金二錢

夏期休業將に近くして學生歸省の途に就くもの多からんとす故山の綠陰に逍遙するものはこの一本を携へ給へ

發賣元
女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

イヨー別品の玉ぞろいダワイ

○玉掌露

一名玉のはだ
一瓶 金六錢
大瓶 金拾錢

抑この玉掌露は玉の如く透明にして中に香氣を含み皮膚を潤し艶を生ずる効能ある故に人々常に此露を手掌にたらし面部其の外にぬりつくれば○のぼせることなし○はだあれず○日にやけるとなし○きめこまやかに也白粉のなじみよく○にきびそばかす○あせも○づさう其外總て悪きふきでものせず○しみを生ずるとなく又寒氣風あらき時は此露を常より多く用ふれば水つかひするとも○ひゞきれず○しもやけせず四季ともに皮膚の美艶をたもつこと誠に無類の佳品にして實に掌中の寶玉と云ふべし殊に三能しやぼんを御遣の跡にて御用ひなれば尤も効能多し

○きめのよくなる 新製たまごぬか 一個にて十度分 定價一錢五厘

○懷中良藥 たまかつら 紙製一錢五厘 布製二錢

○元祖色白くなる 三能しやぼん 一個十錢

○髪のこやし 一名ふけしらず 毛のはへる香油 美人かつら 一瓶 金十錢ゟ

○日本第一 おしろいいらず 白妙 一瓶 金十錢ゟ

發賣元
東京銀座一丁目つやぶきん本家
佐々木玄兵衛
電話番號 四百七十二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生第二十五號目次

百感雜筆　東坡、人を吟ず。訃眼、誤評多し。迷大の人物。粘土流の愛。嘔吐的の青年。不述、嘆而已。備、序、倹は青年の不實なり。
わが園　爲朝の古跡。式亭三馬。八丈の婦人。……畜　𦻙子
漫筆　終焉の辭……禿　木子
理科の話　亡き母を想ふ……明治女學校……櫻　も　ゝ子
詩歌の卷　梅雨の話し。山にか……某　學　士
文　欄
さゝげまつる……清流女學校……加　納　早子
春夜蛙をきく……女子學院……小　出　ちか子
庭のさまを寫す……廣島女學校……三　石　ひで子
靜女に勝れよ……梅香崎女學校……遠　近　田鶴子
地久節……立教女學校……岡　本　もと子
琢磨……梅香崎女學校……安　東　梢子
博物の園　奇なる蜘蛛……某　學　士
昔話　ばけもの花（其二、終）……
心ぐるしき席。一年の雨。……
學びの栞　唐詩選の講義……
雅樂多　秘藏箱……
時の感　何事ぞや。若松、花圃、小金井、女史……
新報　文界消息。近刊雜書……

女學雜誌社

下六番町六番地明治女學校内に轉居仕り從前の如く木曜日午后四時以后來客迎接候

巖本善治

看護婦生徒募集廣告

來ル九月看護婦生徒募集候ニ付志望ノモノハ規則並申込手續等病院ニ就キテ承合セノ上七月十五日迄ニ南豐島郡下澁谷村本社病院エ申込ムヘシ但シ年齡二十歳以上三十歳以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノモノニ限ル

廿五年六月

日本赤十字社

大部大臣子爵榎本武揚公題字
文學院醫學士三島通良先生著

增補訂正　第二版

皇后宮御觀

はゝのつとめ

親の卷　妊婦産婦の心得定價金三十錢（郵税二錢）
子の卷　日本育兒法定價金十五錢（郵税四錢）

右は我國無双との好評を博したる日本母子衞生書なり先般增補訂正の上再版したり醫科大學産科婦人科小兒科病室幷に群馬縣高等小學其他諸女學校に於て參考書又は用書として使用するところ少からず

書肆　通三丁目　丸善。表神保町　中西屋。馬喰町　島利。春木町　島利支店。通鹽町　中央堂て

東京麹町區下六番町

女學雜誌社

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版 百人一首講義

正價 金廿八錢
郵税 四錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて百人一首それ〳〵の歌の何の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶なり。

發兌元　東京麴町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

女學雜誌大取次所

東京市日本橋區本町三丁目　瑞穂屋卯三郎
同　神田區錦町二丁目　武藏屋藤藏
同　京橋區尾張町二丁目　東海堂
同　同　彌左衛門町　巖々堂
同　神田區表神保町　東京堂
同　京橋區出雲町　警醒社
同　日本橋區鐵砲町　指金堂
同　本郷區元富士町　盛春堂
同　神田區雉子町　開々堂
神奈川縣横濱市　共同新聞發賣會社
同　同　万字堂
京都佛光寺烏丸　東枝律書店
大坂本町四丁目　岡島支店
同　福音社
神戸元町四丁目　福音社
函館市　福音社
熊本縣熊本　草野門平
賣捌店は全國各新聞雜誌店に有之候

女學雜誌第三百二十號より改正仕り同號より白赤の二種に別ちたれば五月限り帳簿上も**雜誌代金**亦改正致度候間舊號迄の度候。至急御拂込相成爲替は**麴町郵便局**へ御振込被成下度候

女學雜誌社發送部

一新誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事
一雜誌及ひ書籍代金通運便にて御送付の向は届け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價廣告料及無料廣告

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金	五十八錢	府外	六拾三錢
廿六冊（半年）	同	一圓四十三錢	同	一圓五十六錢
五十二冊（一年）	同	二圓六十錢	同	二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金	三拾五錢	府外	三十八錢
十三冊（半年）	同	七拾三錢	同	七十八錢
廿六冊（一年）	同	一圓三十錢	同	一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵税	金五厘	

一行	一回	（廿七字詰）	前金 拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

○十行以上一割引。　二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部注文を要し以上半頁每に十部增さ定む。

東京市麴町區下六番町六番地
發行所　**女學雜誌社**
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三